

2016.04/ No.148

大阪大学の今を紹介する情報誌

阪大のnow

OPEN
2021

濃いっ! 阪大

特集「OU ビジョン 2021」
(Osaka University)

Topics

平成28年度 入学式

平成27年度 卒業式・大学院学位記授与式

■ OPEN 2021 シンボルマーク



協奏と共創 今、始まる



このシンボルマークは、「OU Vision 2021」を構成するOpen Education、Open Research、Open Innovation、Open Community、Open Governanceの「5つのOpen」を象徴する5つの円を等間隔に配置しています。全体として大きな「O（オー）」の文字を構成するようにし、併せてOsaka Universityの頭文字「O」も意図したデザインにしています。

OU ビジョン 2021

(Osaka University)

— 知の協奏と共創による University 4.0 への始動 —

大阪大学は、1931年の建学以来、かねて大阪の地に根づいていた懐徳堂、適塾の市民精神を受け継ぎつつ、自由闊達な市民社会とのつながりを大切に、地域とともにあらんとする精神を脈々と育んできました。活気溢れる市井に進んで門戸を開き、その豊かな多様性の中で、人類の理想を実現せんと努力する有為な人材を社会に輩出し、しなやかに実直に普遍の真理を見極め、世界最先端の学術研究の成果を世界に還元し続けてきました。これこそが「地域に生き世界に伸びる」をモットーとする大阪大学の真価です。大阪大学は、この真の存在価値にさらなる磨きをかけ、社会の旗手として、広く世界に夢と変革をもたらす原動力となります。

現代社会において、人類は、地球環境の悪化、資源の枯渇、宗教や民族間対立など、地球規模の困難な課題に直面し、深まる不安の中で、私たち一人ひとりの未来への展望は大きく揺るがされています。また、人類は、予想をはるかに超えたグローバル化の波に翻弄され、寛容さを忘れ、平和への道筋を見失いつつあります。社会の安定的な持続可能性を取り戻すためには、科学技術の進展に加え、人や世の在り方に関する深い思索を常に伴うことが不可欠です。こうした総合的な知を創出し、希望ある未来を切り拓くことこそが真の意味でのイノベーションであり、今、大学に求められる使命といえます。

そのような社会からの負託に応え、先人たちから引き継いだ歴史を次世代へと確実につなぐために、大阪大学は、創立90周年にあたる2021年を見据えた第3期中期目標期間の6年間を「進化の期」と位置づけ、たゆまぬ自己変革の指針を「OU (Osaka University) ビジョン2021」として、ここに示します。このOUビジョン2021は、大阪大学が国立大学法人として新たな船出を迎える際に宣言した「大阪大学憲章」の基本理念を、第3期中期目標期間において実装することを目的としています。

わが国においてイノベーションが遅々として進まない要因として、組織の内と外の間に立ちはだかる厚い

「壁」と、その「壁」の内側で作られる狭い見地に差配されたコミュニティの存在が大きいと考えられます。そこで、OUビジョン2021は、学内と学外を隔てる「壁」、また、学内における部局間の「壁」を取り払い、大学の知を広く世のため、人類社会の幸福のために開放すること、つまり「Openness (開放性)」を基軸とした上で、「Open Education」、「Open Research」、「Open Innovation」、「Open Community」、「Open Governance」の五つの柱から構成されています。大阪大学は、利害や立場を超えたあらゆる可能性の交差 (cross) を実現します。すなわち、自ら誇りとする卓越した知の探求を礎としながら、学問分野間で知の交差に挑むとともに、社会の多様な担い手と協働することで、「知の協奏 (Orchestration) と共創 (Co-creation)」を実現する創発の場へと進化していきます。

大学のシステムの変革を辿ると、古典の研究と教育から始まり専門職養成の機関へと変遷を遂げた中世から近世の大学モデルが University1.0、研究の重視とともに研究と教育を一体化させたドイツモデルが University2.0、大学院制度を新たに設け、さらに社会貢献という使命を提唱したアメリカモデルが University3.0 とするならば、今日の大学は University3.0 の直中にあります。大阪大学は、その先に未知なるモデル University4.0 が存在することを確認し、OUビジョン2021のもと、「知の協奏と共創」により University4.0 の実現を目指します。さらに、学生・教職員をはじめ大阪大学のすべての構成員が一丸となり、お互いの関わり合いの中で潜在的な革新性をゆり起こすことで、「世界屈指の研究型総合大学」へと発展していきます。

大阪大学総長

西尾章治郎

Open Education

未来を切り拓く「知の探検者」を育成するために、大学と社会のもつ教育力を交差させ、産官のみならず広く市民社会と協奏し、公共性を備えた知を生み出す「オープンエデュケーション」を実現します。

ビジョン

大阪大学の教育の基本は、学問の真髄を極める専門性の獲得に加え、幅広い見識に基づく確かな社会的判断力としての「教養」、異なる文化的背景をもつ人と対話できる「国際性」、自由なイメージネーションと横断的なネットワークを構想する「デザイン力」を備えた人材の育成です。

世界の状況を見ると、複合的かつグローバルな課題が数多く存在します。国内に目を転じれば、「課題先進国」と呼ばれるように人口減少や高齢化等に伴う問題が山積しています。このような時代においては、細分化された専門分野に閉じたアプローチではなく、問題の本質を見極め、解決のための手立てを考える教育が求められます。大阪大学の有する多様な知や技能の活用と統合を図ることにより、新たな社会的価値を創出するイノベーション人材を育成することは大学の重要な使命です。

大学を「知の社交空間」として、産官学のみならず広く市民社会に開き、オープンエデュケーションによる新たな学びの場を実現します。もはや高等教育は大学人だけが独占すべき営みではなく、問題の発生している現場にいる人々との共創も視野に入れるべきです。大学の専門知と産業界、市民社会との協奏と共創によるオープンエデュケーションは、専門知と社会の「新たな統合」を生み出していきます。

目標

● **社会の負託に応える人材の育成を目指す学部教育の推進**
学問の社会的意義を考える力を身に付けるための主体的な学びの実現を中心とした学部教育の改革を行います。他大学に先駆けて実施してきた高度教養教育や高度副プログラム等の一層の充実を図り、社会の負託に応える教育に取り組みます。

● **新たな社会的価値の創出に挑む人材の育成を目指す大学院教育の推進**
技術的新機軸の開発偏重から新たな社会的価値の創出へとイノベーションの視野を拡大し、それに応える多様な人材育成のための新たな教育プログラムの構築に取り組みます。

● **グローバルに通用する教育を実現するための制度改革**
部局との協力のもと、外国語学部の教育リソースの活用、海外の大学と連携した教育プログラムの拡充、留学生の受け入れと派遣の拡大、学生の英語によるコミュニケーション能力の向上等に取り組みます。

● **多彩な人材獲得のための入試制度改革**
様々な「問い」を見出し、自らその解決に取り組む主体的な学びを実現するため、多彩な人材獲得に向けて入試制度を見直します。

● **多様な学びを実現する学修環境の整備**
学生に対する生活支援、学修支援、キャリア形成支援を充実させ、安心して学修に取り組むことができる環境を整備します。また、学生の抱える様々な課題への支援を強化します。



Open Research

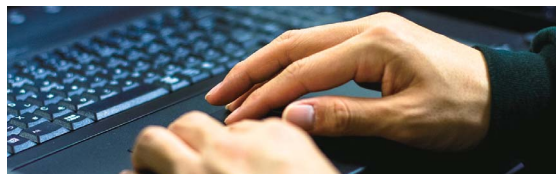
研究者のときめきと自由な発想による学術研究を基軸とし、専門分野を超え、広く世界と協働する新たな知の創出を目指す「オープンリサーチ」を推進します。

ビジョン

大阪大学は、「オープンリサーチ」の考えのもと、世界最高水準の基礎的、基盤的研究や学際融合研究が生み出す多様な知の創出と深化を通じて、心豊かな人類社会の発展に寄与し、世界的課題解決に貢献することのできる世界屈指の研究型総合大学を目指します。特に、卓越した研究力を有し、先端的な設備を備えた大阪大学が誇る世界トップレベル研究拠点(WPI)および共同利用・共同研究拠点等は、その先導的役割を担います。

近年、超ビッグデータ時代を迎え、ビッグデータの高度な統合利活用と新たな知的価値の創造を通じた安心安全な社会の実現が喫緊の課題となっています。大阪大学のもつ高度な情報関連技術を駆使し、「データビリティ」、つまり、「利用可能な超大量データを将来にわたる持続可能性を保持しつつ責任をもって活用すること」による新たな科学の方法を探索します。「データビリティ」は、既存の科学技術・学術の新たな地平を切り拓くと同時に新たな学際融合研究の基盤となります。

これらの研究基盤は、高度な研究マネジメント能力と高い倫理感をもった研究者を多数輩出し、わが国の学術を支える多様な人材が大阪大学に集うための求心力となります。



●真髄を極めた学術研究の基盤強化と国際化

大阪大学の全学問領域にわたり、基礎的、基盤的研究を推進し、多様な知に耕された社会的土壌を盤石していきます。

●不正を起こさない環境整備と構成員の意識改革

「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」および「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」に基づき、大阪大学の構成員の意識改革を図り、研究における不正行為および公的研究費の不正使用の防止策を徹底します。

●世界最高峰の研究拠点への進化

世界屈指の研究型総合大学に向け、大阪大学の強みと個性を最大限に発揮した世界最高峰の研究拠点を複数形成し、研究活動の多面的・多角的な展開を推進します。

●データビリティに基づいた異分野融合による新学術領域の創成

安心安全な社会の実現に寄与する公共的、経済的価値の創造を促進するため、データビリティに基づいた新たな科学の方法を探索します。超ビッグデータの高度な統合利活用を可能とし、知の交差から生み出される新たな学際研究を創発します。

●未来に輝く若手研究者の育成

大阪大学ひいては世界の将来を担う若手研究者が、ときめきと自由な発想を大切に、自らの研究活動に対して澆刻と挑戦することができる活躍の場を設けます。

●卓越した知の拠点としての特色ある共同利用・共同研究の推進

先端的な設備を備えた共同利用・共同研究拠点のさらなる強化を図り、研究力および技術開発力において世界を牽引しつつ、組織の壁を越えた幅広い共同利用・共同研究の推進に邁進します。



目標

Open Innovation

「産学連携から産学共創へ」をコンセプトに掲げ、社会のニーズに基づく基礎研究の課題を発掘し、新たな社会的価値の創出につながる「オープンイノベーション」に挑戦します。

ビジョン

人類が抱えるグローバルで複合的な課題を解決し、より良き未来社会を構築する鍵は、オープンイノベーションの推進です。大阪大学は、世界でトップクラスのイノベティブな大学として、さらに先進的な産学連携に取り組みます。

大阪大学は、従来の産学連携のスタイルをパラダイムシフトさせ、新たな社会的価値の創出を目指した「産学共創」として、技術やサービスの創出だけでなく、それらのユーザーを視野に入れた国内外の異業種や異分野の協働にまで視野を広げていきます。多様な想いや願望が交差することによって新たな社会的課題が生まれ、またその解決策を社会に提示していくことで新たなシステムを構築するオープンイノベーションの新しいステージに、大阪大学は果敢に挑戦します。

大阪大学が推進する「産学共創」は、参画するすべての人々の豊かな才能、着想、さらには感性の相互啓発を可能とします。それは、真に「何をすべきか」を考えられる「What to do重視の人材」を生み出し、社会と大学の間で人と価値の循環を創出するものとなります。



●大阪大学方式の包括的産学共創の促進

社会のニーズに基づく新たな基礎研究の課題を発掘し、オープンな知識の相互流動を実現する「University-Industry Co-Creation」の標語のもと、大阪大学方式のオープンイノベーション型産学共創を推進します。

●大阪医歯薬ネットワークによるトランスレーショナルリサーチの事業化推進

大阪に拠点を置く医薬品メーカー、医療機器メーカー、医薬基盤研究所等と連携し、基礎研究から製品化へのトランスレーショナルリサーチを実施します。また、早期事業承認による医歯薬研究成果の産業化を目指します。

●産学共創による人材育成拠点の形成

「共同研究講座」や「協働研究所」等の産学連携制度を産学共創の仕組みに深化させる過程において、グローバルな視野をもち産業界のニーズに応えられる人材や大阪大学発の革新的イノベーション創出に貢献できる人材を育成します。

●出資事業による革新的技術の社会還元

産業競争力強化法に基づく認定特定研究成果活用支援事業者に対する出資、人的あるいは技術的援助等を通じて、大学における技術に関する研究成果の事業化や教育研究活動の活性化により経済成長と地域発展に貢献します。



Open Community

「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、学術、文化、芸術、医療の拠点として、地域社会やグローバル社会が抱える諸課題の解決や社会の心豊かな発展につながる貢献を目指し、多様な知と人材が交差する「オープンコミュニティ」を実現します。

ビジョン

目 標

「知の社交空間」としての大学は、地域社会やグローバル社会に開かれ、知が自由に往来する場です。大阪大学は、そのモットーである「地域に生き世界に伸びる」を実践していくために、多様な知と人材が交差し、新たな価値を創出できるオープンコミュニティを創出します。

懐徳堂と適塾の精神に基づき、学術、文化、芸術、医療における拠点として地域社会に貢献します。地域の多彩な担い手と積極的につながり、社会の在り方を模索することで総合大学としての可能性を最大限に発揮していきます。

また、グローバル社会との交流を活性化し、多様な文化的背景をもつ人々との切磋琢磨を通じて教育研究活動を深化させます。人類が直面する複雑な課題に立ち向かい、希望ある未来を切り拓くために、グローバルなネットワークを活かした学術交流、国際協力、国際産学共創等のための学内体制を整備し、海外拠点活動を充実します。

文化、言語、ジェンダーを超えた多様性を育むキャンパスを実現し、卒業生、元教職員等の世代を超えたネットワークに支えられたオープンコミュニティを築いていきます。「大阪大学で学んで良かった」、「大阪大学で働いて良かった」と実感し、さらには懐かしく思いを馳せることのできるキャンパスにしていきます。



● 学術・文化・芸術の地域拠点の形成

大阪大学発祥の地である中之島地区で学術、文化、芸術に関するネットワークを構築し、文化創造に資する活動を推進します。中之島センターを核として、21世紀懐徳堂、適塾記念センター、総合学術博物館が連携し、知の地域拠点としての使命を果たします。

● 地域医療からグローバル医療に貢献する附属病院のさらなる進化

地域中核病院として、社会の要請に応じた先進的医療を提供するとともに、グローバルに活躍できる全人的医療人の育成を行い、教育・研修機関としての大学病院のさらなる進化を目指します。

● グローバルなネットワークの拡大による知の協奏と共創

総長のトップ外交から、部局の国際共同研究、学生の海外留学まで、世界各地のパートナー機関とのダイナミックなネットワークを築き、学生や教職員がグローバル社会でその真価を最大限に開花できる環境を創出します。

● オープンでサステナブルなキャンパスの構築

多様な人材と知が交差する空間として、地域活動や国際交流に貢献でき、地球環境への配慮も視野に入れた安心で快適なキャンパスを構築します。魅力的な施設整備や既存施設の効率的運用を推進し、将来にわたり世界最高水準の教育研究が展開できる場を提供します。

● 新たな広報展開による世代間ネットワークの構築

大阪大学が有する歴史、優れた人材、卓越した教育研究内容をブランド価値とし、「地域に生き世界に伸びる」広報を展開します。在学生、現教職員、さらには卒業生、元教職員等の世代を超えたネットワークを構築し、「大阪大学ファミリー」として生涯にわたる絆を育みます。

Open Governance

たゆまぬ自己変革のもとで社会の負託に応えるために、構成員一人ひとりの可能性を最大限に引き出し、安定的で健全な大学経営を行うとともに、リーダーシップと合意形成のバランスを重視した透明性のある「オープンガバナンス」を実践します。

ビジョン

目 標

大阪大学は、絶えず自己を変革していくという伝統を継承し、自主独立の気概のもと、「学問の府」として、教育、研究、社会貢献すべての分野でさらなる高みを目指してきました。大学が岐路に立つ今、大阪大学に求められているのは、ダイバーシティを重視し、学生、教職員等の大学の構成員一人ひとりの可能性を最大限に引き出すことです。個々人の能力を結集し、あらゆる部局が自己革新のもとに創生を図り、世界屈指の研究型総合大学としてしなやかに飛躍するために、総長のリーダーシップと構成員の合意形成のバランスのとれた大学運営を行い、高い透明性をもったオープンガバナンスを実践します。

中長期的な視野に立った安定的で健全な経営を行い、国際、財務、法務、広報等、大学運営に関わる専門分野における優秀な人材の養成を積極的に進めます。「学びがい、生きがい、働きがい」のある教育研究環境、職場環境づくりに取り組むことによって、大阪大学はわが国を希望に満ちた未来へと牽引するフロントランナーの役目を果たしていきます。



● リーダーシップと合意形成のバランスに基づく高い透明性をもった大学運営

総長のリーダーシップのもと、大学の強みや特色を生かした機動的なガバナンス体制を構築するとともに、構成員と調和のとれた合意形成を目指した透明性のある大学運営を実現します。

● 男女協働をはじめとする全構成員が生き生きと活躍できる魅力ある環境づくり

仕事と育児・介護をトータルにとらえ、構成員一人ひとりがどのようなライフステージにあってもその個性と能力を最大限に発揮できる環境を整備し、ダイバーシティを実現します。

● 大学運営を支える優秀な人材の確保と専門人材の養成と活用

厳しい財政状況の中、組織・人員・業務の効率化を徹底し、大学への貢献が顕著な者を処遇できる職場を目指します。能力向上の機会の提供や、働きやすい勤務環境の整備により、職種を問わず多様な人材が高い成果を上げる職場を実現します。

● 中長期的財政ビジョンに基づく堅実な大学経営

学内の中長期財政需要を把握し、資金融通への積極的介入を行うことで、会計年度を越える財政運営を行うとともに、事業の意義と成果の検証を通じて、予算の重点的配分や事業の改廃を推進します。

● 安定的で健全な経営のための自主財源の確保

社会的価値創造によってもたらされる効果を自主財源の確保と増大につなげ、創立90周年に向けて、大阪大学未来基金の拡充を図ります。さらに、政府による規制緩和の動向に対応して、資金や資産を戦略的かつ効果的に運用します。

● 安全・快適で持続的な教育研究環境の構築

学生、教職員等が、それぞれの活動に気持ちよく専念できる環境構築に向け、ハード、ソフトの両面から対策を図り、構成員のリスクに対する意識を啓発します。



Contents

濃いっ! 阪大

02 特集「OU ビジョン 2021」 (Osaka University)

Topics

- 11 今年も掲示板での合格発表実施!
- 12 平成27年度 卒業式・大学院学位記授与式
- 16 平成28年度 入学式

- 20 役員室だより
- 36 阪大の組織 A to Z「男女協働推進センター」
- 38 表彰・受賞等／人事／訃報
- 42 ほっとニュース
- 46 Information



【写真】「OU ビジョン 2021」パンフレット各種

Topics

今年も 掲示板での合格発表実施!

3月9日(水)、3月22日(火)、大阪大学入学者選抜試験の合格者
(前期日程 2,993 名、後期日程 407 名)を発表しました。

昨年同様、今年もホームページと掲示の両方で
行われ、掲示板で自分の受験番号を見つけ、
感激する受験生の姿が見られました。



2015年(平成27年)度卒業式・大学院学位記授与式 総長式辞

パラダイムシフトが求められる時代ー世界で最も“清貧”なリーダーからの問いー



心よりのお祝い

本日、理事、監事、各部局長、教職員の方々のご臨席のもと、2015年(平成27年)度卒業式・学位記授与式を挙行できましたことは、私ども大阪大学全構成員の喜びとするところです。

今日から人生の新たな一步を踏み出さんとされている学部卒業生の皆さん、大学院修士・博士課程修了生の皆さん、大阪大学を代表しまして心よりお祝いを申し上げます。この晴れの日を迎えるまでの皆さんの日々の研鑽とたゆまぬ努力を深く讃えます。

また、この日まで長きにわたり学生の皆さんの勉学と研究を支えてくださいましたご両親、ご家族の方々には、深甚なる敬意を表するとともに衷心よりお慶び申し上げます。

私は、大阪大学の第18代総長に昨年8月26日に就任いたしました。したがって、本日の式典は私が総長としての初めての春の卒業式・学位記授与式であり、このように皆さんに直接語りかける機会をもてること

は大変光栄であり、嬉しい限りです。

皆さんを支える四つの力:「教養・デザイン力・国際性・コミュニケーション力」

大阪大学が2004年(平成16年)度からの国立大学法人化を迎えるに当たり定めた教育目標があります。それは、判断の前提となる「教養」、豊かな構想力を支える「デザイン力」、そしてグローバル社会で活躍するための「国際性」を重視した人材育成をすることです。

さらに、「コミュニケーション力」についても、大阪大学が全国の大学に先駆けその重要性を提起し、本学の学部学生、大学院生がその力を涵養することを目的としたセンターを設置しました。したがって、本学はこれら四つの力、能力を備えるための教育にいち早く注目し、独自性を長年発揮してきたと言っても過言ではありません。

そのような本学の教育方針のもとで過ごされた皆さんは、「教養・デザイン力・国際性・コミュニケーション力」

を十分に備えておられることを確信しております。

今後、皆さん一人ひとりが本学で培ったこれら四つの力及び能力、さらに知恵と知識と技能を存分に発揮されることを心より願っております。そして、皆さんが、どのような分野に進もうとも世界中の国・地域で、その分野において周りの人々から信頼され、リーダーシップを発揮して、自国の将来はもちろんのこと、人類社会の発展と福祉の向上に大いに貢献して下さることを期待しております。

パラダイムシフトが要請される時代

さて、私の専門分野は情報科学です。情報通信分野の過去50年の技術革新を振り返りますと、他の分野ではあり得なかったような凄まじい変化がありました。

他の分野、例えば、交通関係については、新幹線一つをとってみても、1964年(昭和39年)開業以来、現在の速度は2倍にはなっていませんし、燃費がある程度向上したに過ぎません。ところが、情報通信分野では、1960年(昭和35年)からの半世紀の間に、ハードウェアおよびソフトウェア技術の発展に伴い、性能指標は100億倍程度、価格も10万分の1程度になり、コストパフォーマンスで1兆倍以上の変化が起きている、と言われております。

ただし、その技術革新が心や生活を真に豊かにしているかと問われると、すんなり肯定することは難しいところです。急激な技術革新について行くのが大変だ、というような声が往々にして聞かれます。さらに、現在の情報機器に本当に満足しているのか。それらの機器によって居心地の良い社会が構築されていると言えるのか。例えば、身近なこととして、電車の中でも多くの乗客がスマートフォンに脇目も振らずに没頭していることが良いことなのか。そのような問いが次々と発せられています。

さらに問題なのは、最新の情報機器が消費する電気エネルギーの問題です。神戸のポートアイランドには、国内で最も性能の高い「京」と名付けられたスーパーコンピュータがあります。このコンピュータは、フル稼働しますと淡路島全土の消費電力に匹敵する程の電気エネルギーを消費してしまわれています。

そうなりますと、省エネルギーで、しかも性能は高くなくても、例えば高齢者にとって本当に使い易く、日常生活を支えるに足る情報機器の研究開発へとパラダイ



ムシフトすることも重要なのではないかと、思えるようになってきます。

世界で最も“清貧”なリーダーからの問い:「幸せ」とは

そのようなことを思い当たるに至っていた私は、最近、ある衝撃的な書物に出会いました。それは、くさばよしみ(編)、中川学(絵)の「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」という絵本です。

南米・ウルグアイの大統領は、昨年2月末まで、ホセ・アルベルト・ムヒカ・コルダノという人物であり、現在、80歳を迎えられています。彼はその給与の大半を財団や政府のプログラムなどに寄附し、個人資産は友人から贈られた中古の自家用車のみ。大統領就任中も、大統領に与えられる豪華な邸宅は拒否し、郊外の妻所有の農場で公務の合間にトラクターに乗って畑仕事と養鶏をして暮らし、世界で最も“清貧”なリーダーとして知られていました。

彼の大統領就任中の2012年(平成24年)6月に、





ブラジルのリオデジャネイロで「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」が開催されました。その折に、ムヒカ大統領が「幸福」について語ったスピーチが話題になりました。私が目にした絵本の原案はそのスピーチだったのです。現在の地球環境の危機や貧困問題を議論する会議で、各国代表者の演説の後、登壇したムヒカ大統領は次のようなスピーチをしました。

今の文明は私たちが、便利なもの、より良いものを追求することで発展を遂げてきました。その結果、使い捨て、大量消費が当たり前になり、情け容赦ない競争に私たちは踊らされています。私たちは幸せになるためにこの地球に生まれて来た命だったはずなのに、肝心の私たちは、今幸せですか。皆さんの幸福の中身とは何ですか、とムヒカ大統領は問いかけています。「貧乏な人」とは、少ししか持っていない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足しない人のことだと、彼は警告します。

人間の幸せとは、物を所有することではなく、命あるもの、愛を大切にすることと彼は定義しています。具体的には、人と人が幸せな関係を結ぶこと、子供を育てること、友人を持つこと、地球上に愛があること、と述べています。

ただし、それは原始時代の生活に戻ろうと提案しているのではなく、私たちの思い描く幸せの中身、私たち自身の生き方、生活スタイルを見直そうと呼びかけるスピーチでした。

まとめの言葉としてムヒカ大統領は言いました。「社会が発展することが、幸福を損なうものであってはならない。発展とは、人間の幸せに寄与するものでなくてはならない。」と。

皆さんの四つの力で議論の輪を

皆さんのなかには、これから企業や行政、あるいは民間の研究所やシンクタンクに活動の場を移す方もおられる、さらに大学で研究を続ける方もおられるでしょ

う。そして、その活動の期間は、大阪大学で勉学に励まれた期間よりずっと長くなります。

そこで皆さんにお願いがあります。今後の人生のどのような時点においても、このムヒカ大統領の投げかけた問いを思い起こしたり、そして、身近な人と一緒に考えたり、意見交換を行なってほしいと思います。このようなことこそが本学が重要視している教養であり、コミュニケーション力であると考えます。違う視点から物事を見ること、異なる意見を取り入れて考え直してみること、自分の見解を全く違う考えの人にわかるように説明すること、そして、異質な立場や観点も真っ向から排除せずに理解しようと話し合ってみること。そういう人であってほしいと切に願います。

そのうえで、地球全体を持続可能なものにするためには、もはやパラダイムシフトの時代、つまり、従来、当然のことと考えられていた認識や思想、社会全体の価値観などを大きく変化させる時代を迎えているのではないかと私は考えています。皆さんが大阪大学で培った「教養」、「デザイン力」、「国際性」、「コミュニケーション力」を駆使して、これからの時代、自分たちの力で幸福な世の中に変えていく行動を起こしてくださることを願っております。

ここでもう一つ付け加えたいのは、皆さんの立ち位置です。今は、学生として、これから社会に出れば職業人として自分を捉えていると思います。しかし、同時に皆さんは家庭の中での立場も併せ持っているのです。つまり、息子や娘、夫や妻、さらに父や母のような立場にもなり得ます。そういう視点も持ち合わせて、幸福な世の中に変えていくのだ、他所の誰かではなく自分自身が変えていくのだ、という信念を強く持っていたきたいと思います。

いつまでも感謝の気持ちを

最後になりましたが、本日に至るまでに、家族、友人そして研究仲間、加えて皆さんを陰で支えてくださった大勢の方がいます。改めてその方々への感謝の念を思い起こしてください。そして、皆さん一人ひとりのこれからの人生が、健康と幸運に恵まれ、悔いのない生涯を送られることを祈りつつ、私の式辞といたします。皆さん、改めておめでとうございます。

2016年（平成28年）3月28日
大阪大学総長

西尾章治郎

学部生 3,398 名、大学院生 2,614 名が 大阪大学を卒業・修了

3月28日（月）、大阪城ホールで平成27年度卒業式・大学院学位記授与式を
挙行了しました。卒業・修了おめでとうございます。



OBの久坂部羊氏（作家・医師）の記念講話



2016年(平成28年)度入学式 総長告辞

「How to do」から「What to do」、「Why we do」へ —ようこそ大阪大学へ—



ようこそ大阪大学へ

大阪大学に入学並びに進学されました学部、大学院の学生の皆さん、おめでとうございます。また、これまで長年にわたりご子弟を温かく見守り、支えてこられましたご両親やご家族の皆さまにも、心からお慶び申し上げます。

本日、11 学部において 3,502 名の学生が、大学院 16 研究科の博士前期課程、博士後期課程において 2,897 名の学生の皆さんが、大阪大学において晴れて新たな歩を始められました。大阪大学総長として心から皆さんの入学・進学を歓迎いたします。

学生の皆さんは、受験という大きな試練を乗り越えて大阪大学の門をくぐられました。今はほっとしていることと思います。また、これからの勉学、研究やスポーツ、新しい生活や人生設計に、心が弾み期待に満ち溢れていることと思います。

皆さんの前には幾筋もの新しい道が開かれています。皆さんは在学中に多くのことを学び、経験し、豊かな見識を身につけていかれることになりますが、大阪大学で

過ごされるスタートにあたって、私から皆さんに、いくつかのこととお話したいと思います。

大阪大学の特徴

ご存知のように、大阪大学は地元大阪の経済界や財界、大阪府と大阪市、そして府市民の皆さまからの資金援助、そして何よりも強い熱意によって、1931 年に第 6 番目の帝国大学として創設されました。

その源流は、江戸時代に創設された「懷徳堂」と「適塾」に見出すことができます。「適塾」の建物は現在も残っており、国の史跡、重要文化財に指定されています。この二つの学問所は幕府や藩によって設置されたのではなく、市民による市民のための学校として設立されたものです。大阪大学は、この二つの学問所の学風と精神を今も継承し、先進性とたゆまぬ挑戦性を基軸として、教育研究に取り組んでいます。

また、2007 年には、大阪外国語大学との統合という大事業を成し遂げましたが、大阪外国語大学の前身で

ある大阪外国語学校もまた、海運関係の実業家のご夫妻からのご寄附により設立された学校です。

このように、官立でありながら民の力で教育や人材育成のため、学校、大学を成長させてきたという大阪は、特筆すべき都市だと言えます。

現在、大阪大学は、11 学部 16 研究科を擁する総合大学です。学部学生数は 1 万 5 千人を超えております。この数は、日本の国立大学の中で最大です。また、女子学生の数も国立大学最大となっています。それとともに、大阪大学は留学生の派遣と受入れにも力を入れています。その数は毎年増え続けており、例えば、外国人留学生は 2015 年度には約 2,000 名を受け入れておりますが、この数は 10 年前の約 2 倍となっております。

このように皆さんが入学、進学された大阪大学は、特筆すべき歴史と設立の経緯を経て、現在の発展に至っています。こういったことを知ることも学びの一つであり、勉学への励みにもなります。そのためにも、是非、現存する適塾や豊中キャンパスの一角にある総合学術博物館に足を運んでみてください。

大阪大学の教育

大阪大学が 2004 年度からの国立大学法人化を迎えるに当たり定めた教育目標があります。それは、判断の前提となる「教養」、豊かな構想力を支える「デザイン力」、そしてグローバル社会で活躍するための「国際性」を重視した人材育成をすることです。加えて、「コミュニケーション力」を養う教育も実践しています。

「教養」とは、一般的には、学問・知識を身につけることによって養われる心、精神の豊かさを言いますが、少し踏み込んで考えてみましょう。例えば数学の図形問題で、何もないうちに補助線を引くことによって解が導かれることがしばしばあります。補助線の引き方は一通りではなく、幾通りにも引ける場合があり、それぞれ解法も異なってきます。その幾通りにも補助線を引ける力、すなわち、解くべき問題は同じでも、その問題を複眼的に捉えて解への道筋を考えることができる力を「教養」と言ってもよいでしょう。

「デザイン力」とは、ある課題に直面した時に、与えられた環境、決められた拘束条件のもとで、最適の解を導き出す問題解決能力を言います。例えば、建築物の場合なら、与えられた敷地面積、予算、さまざまな法規制、周囲の環境や特性、加えて依頼主の意向などを総合的に勘案してベストな設計をしていく能力、すべてをクリ



アーして仕上げ、遂行する力を指します。

つまり、教養とデザイン力を身につけることによって多角的な視点から問題を捉え、与えられた状況のもとで客観的な指標に基づく最適解を導くことができるというわけです。

「国際性」については、大阪大学のモットーである「地域に生き 世界に伸びる」を体現できるような学生の育成、つまり、地域に根差しつつ海外にも目を向け、世界で活躍できる技量や才能を伸ばす教育を実践するようにしています。例えば、今日は国内の山間部で地域に溶け込み、土地の住民と生活しながら、フィールドワークをしているかと思えば、数日後にはニューヨークにおいて国際会議の檯上で研究発表をしている、というような学生です。ローカルな立場とグローバルな視点を併せ持つ学生、つまり、「グローバルな学生」の育成を目指しています。

「コミュニケーション力」とは、人と人が顔を向き合い、言葉と言葉でしっかりと話し合う「対話」を意味します。電子メールなどが主要な情報伝達手段となった現代社会において、人間同士が向き合うことは少なくなってきました。連絡事項の伝達、例えば、待ち合わせ場所の確認などには電子メールは便利ですが、対話とは、異なる意見を戦わせることでもあります。近年、このようにお互いの考えを対面でじっくりと話し合うことなく、一方的な思い込みによる行動がさまざまな深刻な問題を起しています。「コミュニケーション力」を備えることは、皆さんがこれから大学生活を送るうえで、また、社会に出てからも最も大切なことだと考えます。

先程申し上げましたように、皆さんが地域で信頼されと共に世界で知的な議論に参加し、活躍できる人材になるためには、生まれて最初に習い覚えた言語、つまり

母語である日本語でのコミュニケーション能力を磨くことが大事です。母語でできないことは外国語ではもちろんできないからです。一方で、世界における知的な議論が英語を使って行われていることは、皆さんご存知の通りです。そこに参加していくには、海外旅行で役立つ程度の日常会話の英語ではなく、知的な内容について説得力を持って語ることでできる英語力が必要です。大阪大学は、このような知的な議論に参加できるような英語力を身につけるために、さまざまな教育プログラムを準備しています。グローバル化した世界を生きていくための知的基礎力を備えるために、是非、これらのプログラムにチャレンジしてください。

大阪大学は、学部学生、大学院生の皆さんが、自ら「教養、デザイン力、国際性、コミュニケーション力」の四つの力を十分に身につけられるよう、可能な限り支援します。

大学で学ぶということ

さて、学生の皆さんは入学、あるいは進学のための試験に合格するために、例えば、1点でも多く点数を取るためにどうしたらよいか、そのための対策は何かということで大変な努力をして来られたと思います。どのような科目、どのような問題に取り組まなければならないかという前提が明確に与えられているなかで、「どうすべきか」、つまり、「How to do」ということに主体をおいた勉学をされてきました。

大阪大学に入学、進学された皆さんにとって、今後より強く求められてくるのは、どのような授業科目を選択して自身の進路を切り開いていくのか。どのような研究テーマで卒業研究、修士論文、博士論文の研究を行うのか。さらには、将来、どのような人生を歩んで行くのか、というように「何をするか」、「何をしないのか」、さらに、何かを行う場合には「どうしてそれを行うのか」ということが、次々問われる状況に置かれるようになります。つまり、これまでの「How to do」から「What to do」、さらに「Why we do」を問われるようになります。

私は、これまでの 35 年余りの教員生活における学生諸君との深い関わりのなかで、この「How to do」から「What to do」、「Why we do」へのモードの切り替え、つまり、受け身的な日常の過ごし方から、自らの判断で道を切り開いていくことが求められるモードへの対応が困難な学生数が、昨今、増えてきていることを実感しています。

現代社会において、人類は、地球環境の悪化、資源の枯渇、宗教や民族間対立など、地球規模の複雑な課題に直面しています。これらの困難な課題に挑んでいくためには、いったい何をしたらよいのか、なぜそれをするのか、何のためにそれを行うのか、場合によっては取って行わないのか、問われるようになってきています。つまり、「What to do」、「Why we do」を考える力をもった人材を社会が強く求めるようになっていきます。

そのために大阪大学は、限定された領域に関する専門的な知識ばかりを深めるのではなく、広い視野での俯瞰力をも持ち合わせた人材を育てるべく、今後さらなる教育改革を行っていきます。

ただし、最も大切なことは、皆さん一人ひとりが本日の入学式を契機に自らの意識を改革して、「What to do」、「Why we do」へのモード切り替えを行っていただくことだと考えます。

そして、その新たなモードへのアクセルを踏むのに重要な役割を果たすのが、先程お話しました「教養」、「デザイン力」、「国際性」、「コミュニケーション力」の四つの力を高めることであることは申すまでもありません。

今後への期待

今日のこの日の感激と初心を忘れず、大阪大学の学生としての自覚と誇りを持って、自分を磨く努力をしつつ学生生活、大学院生生活を送ってください。また、皆さんの中には、今日から大阪大学との付き合いが始まる方が多くいらっしゃいますが、その関係は学部卒業後、大学院修了後もずっと続くことになります。ご家族の皆さまにおかれましても、大阪大学が身近な存在になったことと存じます。是非、大阪大学へのご支援、ご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

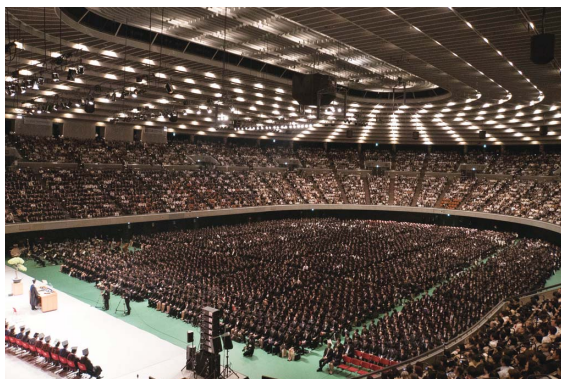
以上で私の告辞とさせていただきます。学生の皆さん、ご出席の皆さま、本日は誠にありがとうございます。

2016 年（平成 28 年）4 月 4 日
大阪大学総長

西尾章治郎

新入生の皆さん、ようこそ大阪大学へ

4 月 4 日（月）、大阪城ホールで平成 28 年度大阪大学入学式を挙行し、新たに 6,399 名（学部 3,502 名、大学院 2,897 名）の新入生が大阪大学に入学、進学しました。



役員室 だより



平成 28 年 4 月 4 日大阪城ホール

監事

野々村 英彦

(ののむら ひでひこ)



[略歴]

- 昭50. 4 松下電器産業株式会社入社
- 平11. 4 松下電子工業株式会社電子管社経営企画室室長(出向)
- 13. 4 松下電器産業株式会社ディスプレイデバイス社経営企画グループ グループマネージャー
- 15. 6 松下電池工業株式会社事業戦略担当取締役(出向)
- 20. 4 パナホーム株式会社顧問(出向)
- 20. 6 パナホーム株式会社取締役常務執行役員(出向)
- 21. 6 パナホーム株式会社代表取締役専務執行役員(出向)
- 24. 8 国立大学法人大阪大学未来戦略機構特任講師(常勤)
- 28. 4 国立大学法人大阪大学監事(常勤)

監事(非常勤)

櫻井 美幸

(さくらい みゆき)



[略歴]

- 平 4. 4 西村法律会計事務所入所
- 15. 5 花水木法律事務所に合流
- 17. 4 宝塚市まちづくり専門委員
- 19. 4 大阪家庭裁判所調停委員
- 24. 4 宝塚市建築審査会委員
- 27. 3 公益財団法人日本生命財団監事
- 27. 4 大阪弁護士会総会副議長(平28. 3まで)
- 28. 4 大阪弁護士会家事法制委員会委員長
- 28. 4 国立大学法人大阪大学監事(非常勤)

OUビジョン2021の実現に向けて 各理事からのメッセージ

Open Education

歴史的に見ると、大学は社会に影響を与えると同時に、社会の影響を受ける存在でした。文学部に代表される人文学、理学部に代表される科学、工学部に代表される技術や工学は、大学の外で誕生し、発展を始めた営みでした。しかし大学はこれを取り込み、代表的な学問として成長させてきたのでした。大学は社会の動きを見極め、新たな学問の息吹きを取り込んできたのです。

おそらく現代は、後世から見れば大学の大きな変革期であったと評されるでしょう。大学の改革を求める社会からの声は大きいものがあります。日本のみならず、世界中で、「大学は何のために存在しているのか」、「大学は社会に何をもたらしてくれるのか」という問いが大学に差し向けられています。大阪大学は、何よりも教育を大事にし、社会に有用、有能な人材を送り出すことをもっとも重要な使命と考えています。とりわけ、研究型総合大学として、学部に加え大学院の教育を充実させることが必要です。今後は、阪大のみならず日本全国で見られる、学生の大学院離れ問題に取り組んでいくつもりです。社会の期待に耳を傾け、学問的な精緻さとの調和を図るために、教育にもオープンなマインドが必要なのだと考えます。

(小林理事)

Open Research

ビッグデータ時代の幕が開き、我々が暮らす社会から最先端科学技術分野まで、毎日のように、エクサバイトを超える大量データが生成されています。このような時代は、大量データから、いかに有用な情報や知識を迅速かつ効果的に取り出すかが、重要な鍵となります。「データビリティフロンティア機構」は、ビッグデータの高度な統合利活用を促進し、大阪大学のすべての研究分野の研究力強化を図り、さらに、新たな研究スタイルを習得した人材を排出することを目指しています。そして、その主役こそ、教職員ならびに学生の皆様です。全構成員が、本機構を「協奏と共創の場」として活用し、新たな研究力を手に入れ、活躍されることを願っています。皆で「データビリティフロンティア機構」を盛り上げ、活用していきましょう。

(八木理事)

Open Innovation

Open Innovationでは、大阪大学方式の新しい産学連携の形、『産学共創』を掲げています。University- Industry Co-Creationの実現のために、産学連携室の統括のもと、産連本部機能強化と各部局連携強化による新体制を構築し、部局間、学内外の壁を取り払い、オープンな産学共創環境を構築したいと考えます。また、企業をキャンパス内に誘致する「Industry on Campus」の推進のみならず、阪大サテライトの企業内設置や教員の企業への出向など、「Academia on Industry」という新たな構想を立ち上げたいと考えます。

(吉川理事)

Open Community

世界に開かれたオープンコミュニティとしての本学は、グローバルな教育・研究交流のネットワークを広めるだけでなく、研究の成果を地球規模課題の解決や心豊かな未来の人類社会の形成に向けた国際協力に役立てるべく、国連などの国際機関や国際協力機構(JICA)などの国際協力機関とも積極的に連携していきます。また、ビジネスや産業界と手を取り合った国際産学共創も推進します。こうした取組を全学的にサポートする機関として「グローバルイニシアティブ・センター」を発足させました。世界に広がる本学の海外拠点を強化し、また、危機管理体制も整備しつつ、グローバルな社会で知の協奏と共創を実践していきます。

(星野理事)

21世紀懐徳堂、適塾記念センター、中之島センター、総合学術博物館を中心とする社会学連携活動の実績が評価され、大阪大学は、日経グローバルが発表した「大学の地域貢献度ランキング」(平成27年12月)では7大学中のトップとなりました。また、女性の活躍を求める社会の要請に応え、平成28年4月1日、「大阪大学男女協働推進宣言」「大阪大学一般事業主行動計画」を公表しました。すべての構成員の協力と働きにより、教育、研究、就業、組織運営、社会貢献のあらゆる場面において先進的な取り組みを全学的に推進し、本学が目指す世界屈指の研究型総合大学に相応しい多様な知と人材が交差する魅力あるダイバーシティ環境の実現を目指していきます。

(工藤理事)

医学部附属病院、歯学部附属病院の使命は、教育、研究、診療を中心とした社会貢献ですが、第3期中期計画では、先進医療の開発、国際医療への貢献など、未来へ、世界へと向かう附属病院のさらなる進化が求められています。一方、医療の高度化、専門分化が進む中、この時機に、もう一度適塾の理念を想起し、全人的医療を遂行することのできる、幅広い見識と豊かな人間性を有する優れた医療人の育成が必要です。両附属病院は、『地域に生き世界に伸びる』のモットーに従い、OUビジョン2021: Open Community実現の一翼を担って邁進します。

(吉川理事)

今年度から、グローバルビレッジと箕面新キャンパスの計画が具体化していきます。ヨーロッパの伝統ある大学のように、町の中に溶け込み、社会との協奏のもと、地域住民とともに大学を核としたオープン・コミュニティを共創していきたいと考えます。

広報に関しては、大阪大学の教育研究に係るブランドを国内だけでなく世界的に高めていくこと、そのために一貫した明確な方針をもって全学的に取り組む広報体制の構築と「大阪大学ファミリー」としての共通感覚の醸成を進めていきます。

(三成理事)

Open Governance

大阪大学が教育、研究、社会貢献すべての分野でさらなる高みを目指し、第3期中期目標期間にも益々発展するためには、絶えまない改革が必要です。OUビジョン2021が目指す未来像を具現化し、財政基盤の強化を図るためには、大阪大学を支える限られた学内資源をいかに戦略的に配分するかが非常に大切であり、その実行に向けて不断の努力を惜しまず真摯に取り組む所存です。

「不易流行」という想いを大阪大学全構成員で共有し、いかなる壁をも打ち破り、大胆な変革を成し遂げるため全力を尽くします。

(小川理事)

室体制を復活させて半年以上がすぎましたが、室会議のあり方や事務処理機能について問題点などを検討しつつ、リーダーシップと全学的な合意形成のバランスを引き続きはかっていきます。また、総合計画担当の理事のもとに経営企画オフィスを設置し、教育研究に関わるIR機能を集中させ、当該情報の全学的な共有化を進め、データに基礎づけられた客観的でオープンなガバナンスの構築を目指します。

(三成理事)

「大学運営を支える優秀な人材の確保と専門人材の養成と活用」という目標が示され、併せて、「評価連動型年俸制、クロス・アポイントメント制度による優秀な人材を確保するとともに、国際的に卓越した研究戦略等を担うリサーチ・アドミニストレーター(URA)など今後求められる専門人材の養成、活用」をはじめとして、個々具体のアクションが盛り込まれたことは、人事労務担当理事として、身の引き締まることと考えております。

もとより、「人材」は大学にとって最も重要な資産であり、多種多様な経験、知識、感性を有する「人材」が、意欲的にその経験・能力を発揮できるよう環境を整えることは大学の重要な基盤を築くものであると認識しております。

皆様には、引き続き人事施策の遂行にあたり、ご協力下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

(鬼澤理事)

大阪大学男女協働推進宣言

平成28年4月1日

大阪大学総長 西尾章治郎

大阪大学は、その源流である懷徳堂と適塾の精神を受け継ぎ、市民による創建の経緯を深く心にとどめつつ「地域に生き世界に伸びる」をモットーに発展してきました。

男女雇用機会均等法の施行から30年となる本年、女性活躍推進法が施行され、女性の活躍を求める社会の要請は一層強まっています。活気溢れる市民社会を支える人材の育成や、新たな社会的価値の創出のために、大阪大学は、今こそ、誇るべき伝統を想い起こし、その真価を発揮しなければなりません。

本学では「大阪大学男女共同参画推進基本計画」（平成24年）に基づき、学内保育園の整備をはじめとする構成員の学修、研究、就業と家庭生活の両立支援を進めてきましたが、いまだ女性の活躍を阻む諸課題が山積しています。次世代の教育と新たな社会的価値の創出という大学の使命を果たすためには、その解決こそが最も重要です。

以上の観点から、これまでの本学の男女共同参画をさらに前進させるべく、すべての構成員の協力と働きにより、教育研究や組織運営において既成の枠にとらわれない先進的な取組みを推進し、本学が目指す「世界屈指の研究型総合大学」に相応しい多様な知と人材が交差する魅力あるダイバーシティ環境の実現を目指します。

大阪大学は、多様で心豊かな世界の創造のために積極的に寄与すべく、以下の「男女協働推進アクションプラン」を全学的に推進することを、ここに宣言します。

【男女協働推進アクションプラン】

大阪大学は、たゆまぬ自己変革によって、教育、研究、就業のあらゆる場面で男女協働を実現します。創立90周年にあたる2021年を見据えた「OU (Osaka University) ビジョン2021」を踏まえ、三つの柱からなる「男女協働推進アクションプラン」を実施します。

1. 学修・研究・就業と家庭生活の両立支援の強化

学生、教職員がどのようなライフステージにあっても、その能力を存分に発揮できる活気に満ちた教育研究環境や職場環境づくりを強化し、ワークライフバランスの実現を図ります。

2. 女子学生・女性上位職拡大の加速化

女子学生、女性教職員、女性管理職に至る持続的で発展的な人材育成システムを構築し、男女協働社会を牽引し、新たな社会的価値の創出に貢献する女性リーダーを輩出します。

3. ダイバーシティ環境の実現に向けた構成員の意識改革

地域社会、国際社会と連携して、全構成員にダイバーシティを重視する意識を醸成し、男女協働の取組みを周知徹底することで、性別、国籍、障がいや性的指向等に関わらず、多様な構成員が個性を尊重され自由で対等に活躍できる学修、研究、就業環境の実現を図ります。

◆大阪大学一般事業主行動計画の策定

大阪大学は、職業生活を営む女性の個性と能力が十分に発揮できる社会を実現するため、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」

に基づき、「大阪大学一般事業主行動計画」を策定しました。女性が活躍できる雇用環境の整備等に取り組んでいきます。

大阪大学一般事業主行動計画 （女性活躍推進法）

大阪大学は、職業生活を営む女性の個性と能力が十分に発揮できる社会を実現するため、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」に基づき、「大阪大学一般事業主行動計画」を策定し、女性が活躍できる雇用環境の整備等に取り組めます。

【計画期間】 平成28年4月1日～平成32年3月31日（4年間）

【本学の課題】

- （１）女性管理職・上位職の比率が低いこと
- （２）教員職、研究職において、採用者に占める女性割合が低いこと
- （３）男性教職員の育児休業取得者が少ないこと

【目標と取組内容・実施時期】

目標1： 将来の女性管理職・上位職人材を育成する。

〔取組内容〕

- ・平成28年5月～ 女性教職員向けに、リーダーシップ教育やキャリアアップ研修を実施し、受講を勧奨する。
- ・平成29年5月～ 男女教職員が公正な能力評価に基づき適正に育成・登用されているかを検証し、必要に応じて改善を図る。
- ・平成30年5月～ リーダーシップ教育等受講者のフォローアップを行い、効果的な教育・研修方法を検討する。
- ・平成31年5月～ 男女教職員が適正に育成・登用されているかを再検証し、適正かつ効果的な人材育成システムの構築を進める。

目標2： 女性教員の採用割合を継続的に高める。

〔取組内容〕

- ・平成28年4月～ 教員職採用者に占める女性比率を25%とするよう女性教員限定公募を行うなど募集方法を工夫する。
- ・平成30年4月～ 直近2年度の採用実績を検証し、必要に応じて募集方法をさらに工夫する。
- ・平成31年4月～ 女性教員の比率を18%にする。

目標3： 働き方を見直し、ダイバーシティ職場環境を実現する。

〔取組内容〕

- ・平成28年5月～ 男女教職員の育児休業取得促進のために、関連制度の周知を強化する。
- ・平成29年5月～ 短時間勤務の拡張など、より柔軟な働き方を検討する。
- ・平成30年5月～ ダイバーシティ職場環境阻害要因の改善を図る。

総合計画室

平成28年度年度計画について

平成28年度の本学年度計画については、各担当理事が第3期中期計画の着実な達成を見据えるとともに、スーパーグローバル大学創成支援事業や概算要求における機能強化に向けた取組を踏まえて作成し、3月末に文部科学省に届出しました。（大阪大学ホームページに掲載 <http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/information/joho/nendo.html>）

なお、年度計画の概要は下図のとおりです。

キャンパス車両入構ゲート到新システムを導入します

豊中・吹田キャンパスでは、入構車両の管理のため車両入構用の入口に機械式のゲートを設けていますが、当該機器類の老朽化にともない更新を行います。更新にあ

たっては、管理能力の向上と管理経費の削減を目的として、事前入構許可車両の入構管理に新システム（車番読取システム）を導入する予定です。

車番読取システムとは、入出構時にセンサーカメラで車両のナンバーを読み取り、登録車両のデータベースと照合し、自動的にゲートをオープンするシステムです。現在は入構許可証の提示をしていただいておりますが、これが不要となります。二輪車については、車番の読み取りができませんので、非接触型ICカードなどを用い自動化する方向で検討しております。一時入構車両の取り扱い、現状と変わりありません。

新システムの導入は、平成29年4月を目標としています。教職員の皆様には、更新に際しご不便をおかけすることもあるかと思いますが、ご協力よろしくお願いいたします。

拠点施設の着工



総合研究棟（文理融合型）

構造：鉄骨造
規模：地上7階
延べ床面積：4,600㎡
着工予定：平成28年8月
完成予定：平成29年8月

本施設は、部局横断的に集結した卓越研究者及び世界各国から招聘した外国人研究者等が集い、大阪大学発のイノベーション創出を目指した文理融合型研究を行う総合研究棟です。

外観デザインは、メインファサードは曲面カーテンウォールを中心に基壇部に金属系サイディングを配してシンボル性を高めた構成としています。また、本部棟のタイル意匠を部分的に踏襲して周囲との調和を図っています。

1階にはパブリック交流スペースを、2階～4階に事務・会議室スペースを、そして5～7階に研究ユニットスペースをそれぞれ配置した階構成となっています。

省エネルギー対策として、居室部分の窓開口を極力小さくして熱負荷を減らし、共用部はLow-eガラスの採用や自然換気システムの導入を計画しています。

教育室

カリキュラム改革について

昨年の秋以来取り組んできた学事暦の見直し作業が完了しました。各部局のご意見を聞きつつ、慎重に検討した結果、4学期制を導入するとともに、授業内容等に応じて学期ごと若しくは複数の学期にまたがる科目を設定するなど、柔軟な学事暦構造を実現し、平成29年度よりこの構造を活用した科目の設定を順次進めていきます。また、今年度中に、各部局でのカリキュラム改革の検討を開始し、平成30年度より本格的なカリキュラム改革を実施していきます。

入試改革について

今年度は世界適塾入試が始まります。また、文部科学省も入試制度改革の検討を続けており、今後はこの動向も見据えつつ、本学の入試全体の在り方についても検討する必要があります。アドミッションポリシーの見直し等を含め、入試改革の議論を進めていきます。

卓越大学院構想について

卓越大学院構想についても検討を始めます。リーディング大学院の補助期間の終了が迫ってきていますが、新たに卓越大学院構想の検討が文部科学省で進められています。この構想については、適宜、教育改革推進会議等に情報提供し、全学的に検討を進めていきます。

スーパーグローバル大学創成事業について

スーパーグローバル大学創成事業については、来年度の中間評価を見据え、外部有識者会議を設置しました。達成目標の実現に向け学内で各種施策を展開するとともに、外部有識者の評価・助言を受け、中間評価に臨みます。各部局の皆さんのご協力をお願いいたします。

昨年度も入学試験は無事終了しました。後期入試の際には鉄道の遅れにより、午後の試験の開始時刻を繰り下げる措置をしましたが、各学部の柔軟な対応により無事乗り切れました。しかし、後期入試においては採点ミスが発生し、直ちに対応するとともに、学外に公表したところでした。近年、大学院入試、一般入試に加え様々な種類の入試が増えています。また今年度からは世界適塾入試も始まります。作問、採点の全過程において、十分なチェック体制を確立し、緊張感をもって作業に当たっていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



OSAKA UNIVERSITY
Live Locally, Grow Globally

平成28年度大阪大学年度計画について（概要）

●各担当理事が**第3期中期計画の着実な達成**を見据えるとともに、**スーパーグローバル大学創成支援事業**や**概算要求における機能強化に向けた取組**を踏まえて作成

年度計画の主要な事項

- 新学事暦に対応した新カリキュラム**及び移行計画の検討（1-1-1）
- 科目番号制（ナンバリング）**の導入の試行（2-3-2）
- クロス・アポイントメント制度**の推進や**国際ジョイントラボ**の形成（6-1-1、6-2-1）
- 「産学連携から産学共創へ」**をコンセプトとした**オープンイノベーション**の実現に向けた具体的構想の検討（8-3-1）
- UC/UCEAP大阪オフィスと連携した理工系短期留学プログラム**「FrontierLab@OsakaU SummerProgram」の実施（10-2-2）
- 大阪大学VCと連携した大学発ベンチャー**の活性化（11-1-1）
- 「男女協働推進宣言（仮称）」の策定など**男女共同参画**の推進（16-2-1）
- 研究室へのモニタリングの充実など**公的研究費の不正使用再発防止策**の実施（26-1-1）
- 公的研究費に携わる教職員・院生等の意識向上に向けた、**コンプライアンス教育**の実施（26-1-2）
- 各部局の研究倫理教育責任者を中心とした、**研究分野の特性に応じた研究倫理教育**の実施（26-2-1）

●予算：「平成28年度収入支出予算」における予算額1,364億円を基に作成
●収支計画、資金計画：予算に基づく損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の見積りを示したもの
●施設設備に関する計画：予算における施設整備費の事業内容を示したもの
●人事に関する計画：クロス・アポイントメント制度の積極的な活用、外国人数員の更なる採用の促進など主要な取組計画を示したもの

研究推進室

データビリティフロンティア機構 4月よりスタート!

4月1日に「大阪大学データビリティフロンティア機構」を設置しました。

「データビリティ」とは、大規模なデータを持続可能かつ責任ある形で活用する能力のことで、本学では、安心・安全な社会の実現に寄与する公共的、経済的価値の創造を促進するため、本学のもつ高度な情報関連技術を駆使し、データビリティに基づいた新たな科学の方法を探索します。

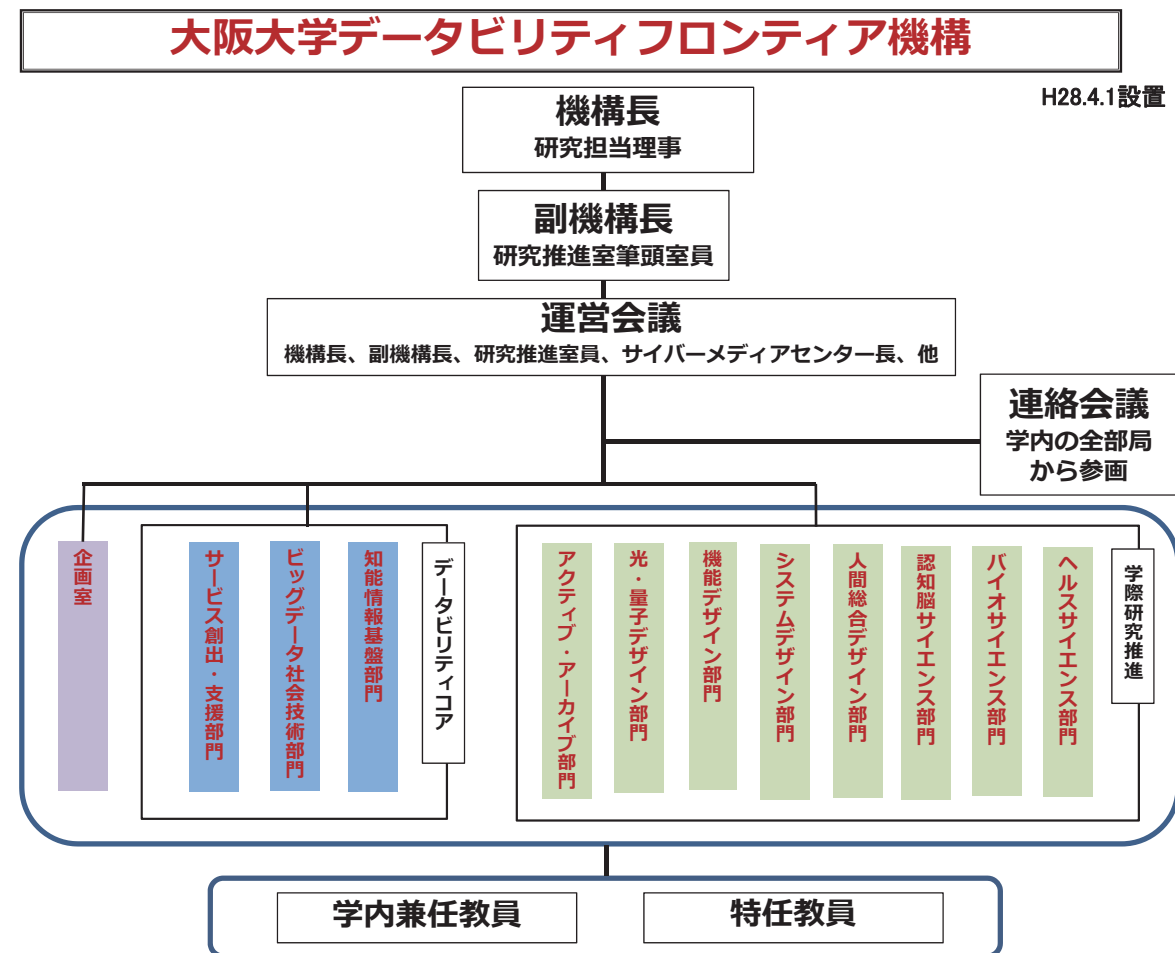
データビリティフロンティア機構を設置することにより、超ビッグデータの高度な統合利活用を可能とし、知の交差

から生み出される新たな学際研究を創発します。

研究推進室が発足した当初から、組織体制や役割、実施するプロジェクト等について検討を重ねてきましたが、まずは、学内の兼任教員66名でスタートすることとなりました。

また、4月21日(木)には、内閣府 総合科学技術・イノベーション会議の久間和生議員、国立情報学研究所の喜連川優所長もお招きして、キックオフシンポジウムを開催しました。

今後、様々な学際融合研究を産み出すことにより、大阪大学の研究力強化をめざしていきます



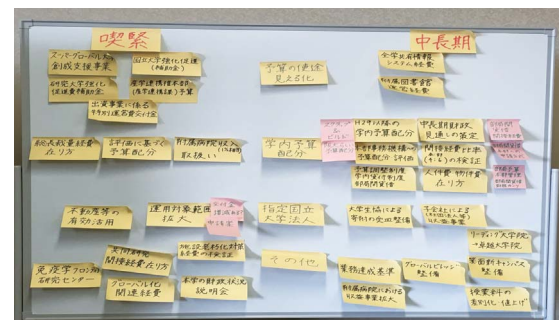
財務室

財務室は、OUビジョン2021のうちオープンガバナンスの実践に向けて検討を重ねています。

その中でも、中長期的財政ビジョンに基づく堅実な大学経営に向けた取り組みとして、平成28年度より「予算調整制度」を新たな学内支援制度として導入したところです。

また「総長裁量経費」の配分スキームの刷新、「評価に基づく予算配分」、さらには「指定国立大学法人」指定を目指した財政基盤強化に向けて、財務室やその下に検討ワーキング・グループを設置して議論・検討を進めています。

更には日々新たに生じる様々な課題に対する問題意識を共有し、解決に向けたアイデアを集積していくためのブレインストーミングを随時行い、財務担当理事、財務室員、財務部関係の全ての構成員一人一人が主体であることを自覚しつつOUビジョン2021の実践に向けて邁進してまいります。



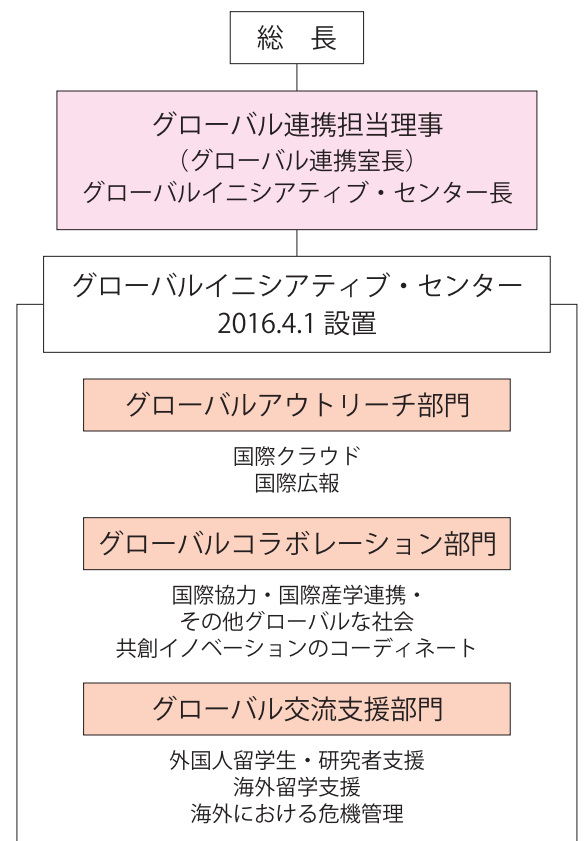
グローバル連携室

グローバルイニシアティブ・センターの設置について

本学のグローバル連携は、教育・研究に留まらず、国際協力から産学共創や社会イノベーション活動に至る実務的で、社会的にも大きな意義を持つさまざまな取組が進んでいます。そこで、グローバル連携室は、優れた研究力や教育力を持つ本学の各部局や部局を横断したチームの発案によるこれらの事業(イニシアティブ)がより効果的に企画・実施・運営できるように全学的な観点から推進し、支援をしていくため、平成28年4月1日付で「グローバルイニシアティブ・センター」を立ち上げました。

同センターは、グローバルアウトリーチ部門、グローバルコラボレーション部門及びグローバル交流支援部門の3部門からなり、センター長はグローバル連携室長が兼任し、室員も分担して各部門の活動を支援します。

総長外交や海外広報を通じた本学の国際的プレゼンスの向上や海外危機管理に関わる活動も本センターが担当します。



産学連携室

大阪大学の出資事業初となるスタートアップベンチャーへの投資を決定！

1月20日(水)、大阪大学の出資事業における共同研究の成果から生まれた初のスタートアップベンチャー企業「(株)マトリクスーム」に対して、大阪大学ベンチャーキャピタル(株)が運営するOUVC1号ファンドが、1億5千万円の投資を決定し、1月28日(木)に大阪大学吹田キャンパステクノアライアンス棟1F交流サロンにて記者発表が行われました。

(株)マトリクスームは、大阪大学蛋白質研究所の関口清俊教授らの研究グループと(株)ニッピが開発した、再生医療の基盤となる細胞培養用基材の開発・販売及びソリューションをグローバルに提供していく予定の企業です。大阪大学の出資事業における本案件の重要性や、マトリクスーム社の事業展開が今後の再生医療関連ビジネスに与えるインパクトなどにつき、西尾章治郎総長、(株)ニッピの伊藤隆男社長、大阪大学ベンチャーキャピタル(株)松見芳男社長等から説明されました。

引き続き、OUVCでは、特に、大阪大学としての強みを発揮できる投資分野として、再生医療、免疫系癌治療、早期診断、ロボット・人工知能、ICT・ビッグデータ、省エネ等の研究領域からの、スタートアップ・アーリーステージベンチャー、共同研究先とのジョイントベンチャー及び既存の大阪大学発ベンチャーの発掘を強力に進める予定です。



○ご興味をお持ちの方は次までお問い合わせください。

大阪大学 共同研究・事業化推進グループ

E-mail: invest[at]uic.osaka-u.ac.jp

協働研究所および共同研究講座の新設

大阪大学における産学共創を推進する制度である協働研究所および共同研究講座(部門)が、4月より5件新設されました。

- ・高速エネルギー治療学共同研究講座
- ・先進高性能計算機システムアーキテクチャ共同研究部門
- ・ダイキン協働研究所
- ・NECブレインインスパイアードコンピューティング協働研究所
- ・三菱電機サイバーセキュリティ協働研究所

産業競争力懇談会(COCN)の大阪大学サイトビジット

3月29日(火)にCOCNの大阪大学サイトビジットが、産業科学研究所において開催されました。COCNは、我が国の持続的発展の基盤となる産業競争力を高めるために、科学技術政策やイノベーション政策などの諸施策や官民の役割分担を、政策提言としてとりまとめ、関連機関へ働きかけて実現を図る活動を行っています。今回は「オープンイノベーション加速に向けた産学共創プラットフォームの構築」をテーマに開催致しました。まず、西尾章治郎総長より、「OUビジョン2021」を、吉川秀樹理事・副学長より、「産学連携から産学共創へ」を説明致しました。さらに、具体的な産学共創への取り組み例として、「データバリエティフロンティア機構」(八木康史理事・副学長)、「知能ロボットの社会実装」(石黒浩基基礎工学研究科教授)、「健康医療クロスイノベーション会議」(徳増有治医学部附属病院特任教授)、「Industry on Campus-産研企業リサーチパーク」(中谷産業科学研究所所長)、「大阪大学COI拠点」(松本和彦COI副機構長)、「大阪大学ベンチャーキャピタル」(松見芳男OUVC社長)について紹介致しました。意見交換会では、データバリエティやICT、大学教育と人材育成、イノベーションなどをキーワードに、大学および産業界が果たすべき役割について様々な意見が交わされました。産業界と大阪大学が「産学共創」に向けた教育と研究の在り方を議論する、貴重な機会となりました。



男女協働推進・社会学連携室

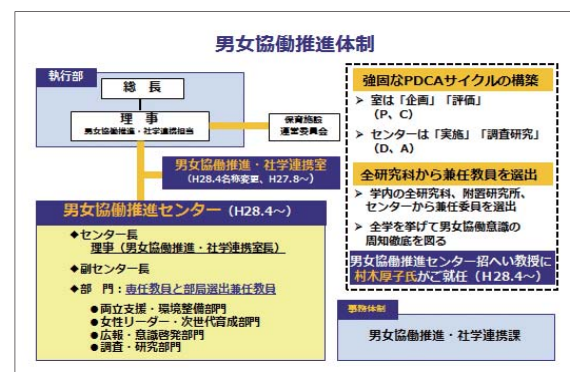
◆大阪大学男女協働推進センターの設立

男女共同参画・社会学連携室は、理事・副学長が室長を務める、総合計画室、教育室、研究推進室、財務室、産学連携室、グローバル連携室、人事労務室と連携して、ダイバーシティを根幹に据えた世界屈指の研究型総合大学を目指す活動を展開してきましたが、男女協働型の教育研究活動を確実に実施すべく、本年4月1日、「大阪大学男女協働推進宣言」の公表にあわせ、「男女協働推進センター」を設立しました。

また、センター設立にあわせて、男女共同参画・社会学連携室の名称を「男女協働推進・社会学連携室」に変更しました。教職員からなる実施体制強化のため、センターの教員は全学からの兼任教員と、専任教員及び招へい教授で構成し、事務組織も改組し「男女協働推進・社会学連携課」が4月1日より新設されました。

男女協働推進センターの名称は、男女共同参画基本法等の文言にある、「共に同じく」の共同ではなく、「協力して働く」の「協働」を用いています。これは、ともに参加するだけでなく、すべての男女構成員の協力と働きによって、研究教育や組織運営においてこれまでの既成の枠にとられない取組みを推進し、未来型の大学を作っていくという、決意のあらわれです。

皆様の一層のご支援とご協力をよろしくお願いします。



◆村木厚子氏が大阪大学招へい教授にご就任



本年4月1日に元厚生労働事務次官の村木厚子氏が大阪大学招へい教授に就任されました。

5月24日(火)に開催いたします「大阪大学男女協働推進センター設立記念シンポジウム」では、「これからの働き方改革」と題し、ご講演いただく予定です。

◆一時預かり保育室「なかよし」「みらい」の開室

「お迎えの時間だけど、今はまだ帰れない、もう少し頑張りたい」・・・教職員、学生の皆さんのそんな気持ちを応援すべく、豊中キャンパスに一時預かり保育室「なかよし」、箕面キャンパスに「みらい」を開室しました。早朝7時から夜9時まで、土日祝日も利用可能です！

経験豊富なベビーシッターさんが学内外問わずお子様をお迎えに行き、一時保育室で大切にお預かりします。利用料金は1時間1000円(税込・ただし利用は2時間～)のみです。実際にかかる費用との差額は大阪大学が負担しています。研究も仕事も学業も、そして子育ても！一生懸命がんばる皆さんを強力にバックアップします。現在、吹田キャンパスの開室に向けて準備を進めています。



豊中一時保育室
「なかよし」



箕面一時保育室
「みらい」

【現在、吹田キャンパスでの開室準備も進めています。お子様をお預かりする保育室に適したお部屋はないでしょうか。情報がありましたら、男女協働推進・社会学連携課男女協働支援係までご連絡ください！】

◆学童保育の試行

「春休みですから!お子さんと一緒に大阪大学に登校しませんか?」・・・小学生の子供たちが春休み中の3月25日(金)、29日(火)に、一時保育室「なかよし」「みらい」で学童保育を無料(昼食・おやつ付き)で試行しました。豊中、箕面地区の両保育室合わせて、25日は13名、29日は18名のお子様に参加、一緒に学び、遊び、楽しく賑やかな時間を過ごしました。



豊中地区の様子

箕面地区の様子

今回の利用者を対象に行ったアンケート結果を踏まえ、早ければ今年度夏休みからの本格実施に向け、準備を進めています。

◆保育園のさらなる充実

教職員・学生の皆さんの大切なお子様が過ごす学内保育園設備のさらなる充実を目指し、様々な改善を行いました。

【まきば保育園】

- ・急勾配の階段しかなかった保育園出入口にスロープを設置
- ・夏場の日差しからお子様を守る日よけ設備の設置

【たけのこ保育園】

- ・保育室内の壁紙張り替え

【ましかね保育園】

- ・園児用プールの追加購入
- ・園内の側溝不具合改善工事の実施
- ・保育園木部外壁修繕工事の実施

【病児・病後児保育室あおぞら】

- ・お子様に危険であった出入口の急な段差・踏み段改善工事の実施

◆オムツ替えシート・ベビーチェアの設置(コンベンションセンター・中之島センター・大阪大学会館)

学外からの利用者が多く、特に公共性の高い3施設の多目的トイレおよび一般トイレに、オムツ替えシート、ベビーチェアを設置しました。

今後も様々な要望に応え、おむつ替えシート、ベビーチェアの設置を進めていきます。



◆同窓会連合会の事務担当が変わります

大阪大学同窓会連合会は、平成17年7月に発足した組織です。長い歴史を有する各学部同窓会など相互の交流・連携を推進し、卒業生等の交流・親睦を図り、大阪大学との連携を緊密にし、広く社会に貢献することを目的としております。

これまで同窓会連合会の事務局は、広報・社会学連携課が大阪大学中之島センター内にて担当していましたが、本部事務機構の改組により、平成28年4月から卒業生室が担当し、吹田キャンパス本部棟に移転することとなりました。

10万人を超える卒業生との結束と交流を深めることを目的として設置された卒業生室が、同窓会連合会の事務局を担当することにより、部局同窓会等との連携が更に活性化することが期待されます。

なお、中之島センターの各室を、同窓会など卒業生の親睦を深めることを目的に使用の場合は、その使用料が減免される「特別減免制度」をご利用いただけますので、同窓会の開催の折には、ぜひ中之島センターをご活用ください。

◆アウトリーチ報告書を発行

2010年に内閣府が「国民との科学・技術対話」として位置付け、その基本的取組方針を決定した双方向コミュニケーション活動は、「アウトリーチ活動」と称して、今日に至ります。

本学では、全学的な社会学連携活動を担う「21世紀懐徳堂」が、アウトリーチ活動を支援し、2012年に「アウトリーチ支援チーム」を、2014年には「アウトリーチ研鑽チーム」を組織して、サポート事業や統一様式によるアンケートの実施など、さまざまな取り組みを進めてきました。

このたび、本学におけるアウトリーチ活動の概要や方策、体制を再度提示し、統一様式によるアンケートから見えてきたアウトリーチ活動の実態や、広報活動、効果などを網羅的に取りまとめた報告書を「大阪大学における社会貢献・アウトリーチ活動の現状と成果」として発行しました。

この報告書から読み取れることは多岐にわたります。今までの実施方法への再考を促すことになるとともに、これからのアウトリーチ活動を一層効果的なものにするための多く



の示唆に富んでいると自負しております。

「アウトリーチ活動を始めてみようか」と思う研究者のみならず、「そもそもアウトリーチ活動って何?」と思われた構成員の皆様に、ぜひともお手を取っていただきたい報告書です。

◆大阪大学と京阪ホールディングスが社会学連携協定を締結しました

大阪大学と、京阪ホールディングス株式会社は、平成28年4月1日に、社会学連携に関する協定を締結しました。

この協定書により、両者は、まちづくり、教育・文化力向上のために連携協力し、知的・物的資源の相互活用、情報交換の場の構築を積極的にすすめます。

京阪電車中之島線「なにわ橋駅」には、大阪大学と京阪などが運営する「アートエリアB1」というスペースがあります。このような、駅空間を活用したコミュニティスペースの有効性と、そこから波及する社会の活性化の検証などさまざまな取り組みから、地域の活性化・発展、人材の育成に寄与していきます。



自己啓発休職制度の本格的実施について

自己啓発休職制度は、意欲のある職員が、自主的に自己啓発のための活動を行い、より高い使命感と働きがいをもって職務を遂行することができるよう、大学院への進学や留学等のために休職を認めるというものです。

当該制度については、平成17年度から試行的に実施しており、これまで事務職員・看護職員26名が利用しました。制度利用者は休職で培った専門的な知識を職務遂行に活かし、それぞれの部署で活躍しております。

今後も専門的な知識を習得するなどの仕組みとして、このような制度が必要であると考えられることから、制度の内容は現行のままで本格実施することになりました。

○制度の概要

1. 「自己啓発活動」とは
(1) 大学院への進学 (2) 海外留学 (MBAの取得など) (3) 大学が必要と認めた活動
2. 休職期間
原則として3年を超えない範囲
3. 休職期間中の取扱い
(1) 給与は支給しない (2) 大学が必要と認めた場合※1は自己啓発活動支援資金※2を貸与
※1 ①勤務成績優秀 ②本学の大学院 ③復帰後、職務遂行に大きな効果が期待できる
※2 自己啓発活動支援資金…①生活費(月20万円)②入学金③授業料など
4. 自己啓発休職対象者の範囲
勤続年数が原則3年以上(休職開始時点)で定年退職予定日までに5年以上の期間(休職復帰時点)があるもの
5. 自己啓発活動支援資金の返金免除
5年以上勤務した場合、支援資金貸与額の全額免除(1年勤務につき20%ずつ免除)
6. 実施日 平成28年4月1日

変形労働時間制の対象拡充について

ワークライフバランスの観点から多様な働き方へのニーズがあることや、平成27年人事院勧告(勤務時間勧告)において、フレックスタイム制の拡充が勧告されたことを背景として検討を行いました。

検討の結果、国家公務員のフレックスタイム制が、事前に勤務時間を割り振る制度という点が本学の変形労働時間制と類似していることから、その対象を拡充することになりました。

具体的には、現在、業務都合によるもののみとなっている1ヶ月以内の変形労働時間制の対象に、育児・介護の他、継続的な通院又は治療等、教職員個人の都合によるものを新たに加えることとなります。

○対応方針

1. ワークライフバランス等の観点から、多様な働き方へのニーズに対応すべく、変形労働時間制及び早出遅出勤務の対象を拡充するよう、以下のとおり改正を行う。

1か月以内の変形労働時間制及び早出遅出勤務の対象に、教職員の都合によるものを加えて拡充する。
①中学校就学の始期に達するまでの子を養育する教職員 ②対象家族の介護を行う教職員
③その他大学が特に必要と認めた教職員

※1 早出遅出勤務については、下線部を拡充。
※2 「その他大学が特に必要と認めた教職員」は、継続的に通院又は治療等を行う必要がある者を想定。
2. 実施日 平成28年4月1日



山田特任教授への花束、記念品の贈呈

山田特任教授送別の集いを開催

平成18年5月より、人事労務室会議にて、人事施策等に対する助言等を行うため参画いただいていた山田特任教授が平成28年3月末をもって、本学を退任されることになりました。

これまで、約10年の長きにわたるご助言等に感謝すべく、人事労務室関係者による送別の集いが、さる3月10日に開催されました。

この集いには、鬼澤人事労務室長をはじめ13名が集い、山田特任教授との別れを惜しみました。

STOP！研究費不正

不正使用とは・・・

「故意又は重大な過失による、公的研究費の他の用途への使用又は本学の規程、法令並びに競争的資金等の交付の決定の内容及びこれに付した条件等に違反した使用」です。 ※金額の多寡に関わらず不正使用になります。

不正使用を起こさないために・・・

- 「再発防止策」の確実かつ継続的な実施
- 研究費の使用ルール等を確認し、適正(公正かつ効率的等)に使用
- 研究者は機関(大学)とともに研究費の管理(支出計画と進捗管理)・運営を適切に実施 等

※詳しくは、「公的研究費使用ハンドブックー正しく理解し、正しく使うためにー」または HP「公的研究費の不正使用防止への取組」をご確認ください。

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/research/fuseiboushi>

不正使用への関与は犯罪です！

虚偽書類を作成し、大学から不正に公的研究費を支出させる等の行為は、不正使用(預け金、品名替、カラ出張、カラ給与等)になり、犯罪(詐欺罪、背任罪等)です。

不正使用者に対しては、氏名公表、研究費返還、配分機関の処分、大学の懲戒処分など、刑事告訴を含めて厳しく対応します。

不正使用の根絶に向けて一人一人が適切な経費の管理と執行を！

【問い合わせ先】

不正使用防止計画推進室
電話:06(6879)4767

研究費の原資は国民の税金です。

研究費の不正使用は国民に対する裏切りです。

大阪大学は研究費の不正使用に厳格に対応し、不正使用が起きない、起こさない環境づくりに取り組んでいます。

大阪大学

STOP!

研究費不正

品名替

カラ出張

カラ給与

研究費の不正使用に係る通報窓口

監査室

電話:06(6879)4071

FAX:06(6879)4074

STOP

研究費不正

不正使用防止計画推進室

皆がHAPPYに。男女協働推進センターの挑戦

～女性も、男性も、働きやすい職場をめざして～



男女協働推進センターのメンバー

平成28年4月1日付けで設立された「大阪大学男女協働推進センター」。その目的や役割、今後の取組について工藤真由美理事・副学長（男女協働推進・社会学連携担当）に伺いました。

性別、人種をこえて 能力を発揮できる大学に

先日、ある企業の方からダイバーシティの取組を聞く機会があり、「早くなくそう。男女共同参画」というスローガンを掲げ

ていると伺いました。「うまいこと言うな。」と。それを謳うということは、それがまだできていない。不十分ということの表れだから。

大阪大学は、学部生数は国立の総合大学で最多で、女子学生数も最多です。これまでも男女協働の取組、例えば学内保育園を整備したり、学修、研究、就業と家庭生活の両立ができるよう環境整備を進めてきましたが、まだまだ課題が山積しています。さらに前進させるべく、この4月1日に「大阪大学男女

協働推進宣言」を公表し、「大阪大学男女協働推進センター」を立ち上げました。

全学の協力あってこそそのセンター

昨年、西尾総長の就任と同時に「男女共同参画・社会学連携」ができて、OUビジョンで謳ったように中長期で男女協働を進めるための展望を立てることができました。この4月からは、その計画を実現していく部署としてセンターを設立しました。

役割としては、大まかにはPDCAで言うと、PlanとCheckの部分を室が担当し、DoとActionをセンターが担います。室がたてた計画を実行していくのがセンターです。

センターには全部局から兼任教員として参画いただき、また専門家としても元厚生労働事務次官の村木厚子氏にも招へい教授として着任いただいて、男女協働の取組を強力に推進していこうとしています。

あらゆる両立支援を

センターでは学生・教員・職員がどのようなライフステージにあっても、その能力を存分に発揮できるよう支援を行います。特に子育て支援では、以前からの学内保育園運営に加え、昨年度、病児・病後児の保育施設「あおぞら」を設置し、3月には一時預かり保育室を豊中と箕面キャンパスに開設しました。さらに学童保育も試行で始めています。

また、女性のキャリアアップのためのプロジェクトを企業の方と進めたりと、色々な支援事業に取り組んでいきます。

女性が働きやすい ＝男性も働きやすい

最も重要だと考えているのが、働き方改革です。家庭生活との両立支援のためには、仕事を時間で評価する等の意識を改めていかなければなりません。また、女性自身の意識改革も必要ですね。

どんなに制度を充実させたとしても、みなさんの働き方に対する意識が変わらなければ、何も変わりません。女性が働きやすい

職場というのは、もちろん男性も働きやすい職場なのです。仕事も家庭生活も充実した環境で働いてもらいたい。そのための手助けをセンターが中心になり、大阪大学構成員のワークライフバランスを実現したいですね。

最後に、男女協働というのは、ダイバーシティある職場への通過点にすぎません。

大阪大学には多様な人がいます。男女の差無く、働きやすい職場にしたい。性別や国籍、障がいや性的指向等に関わらず、どんな人も個性を尊重され、働きやすい職場にしていきたいために、センターはがんばっていきます。

ご協力、ご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。



工藤理事

大阪大学 男女協働推進センター：
男女共同参画に関する事業を効果的かつ円滑に推進し、構成員がその能力と個性を最大限に発揮できる魅力ある就業環境の実現を図ることを目的に、様々な取り組みを進めています。2016.4.1設置。

●大阪大学 男女協働推進センター
ホームページ
<http://www.danjo.osaka-u.ac.jp/>



一時預かり保育室での学童保育(試行)の様子@豊中



病後・病後児保育室「あおぞら」



あれこれ施設整備しています▶



多目的トイレにおむつ替えシート・ベビーチェアを設置

「省エネ大賞」と「おおさかストップ温暖化賞」を受賞

本学は、平成 27 年度省エネ大賞（一般財団法人省エネルギーセンター主催、経済産業省後援）において「資源エネルギー庁長官賞」を受賞し、1 月 27 日（水）に東京ビックサイトで表彰式が行われました。

更に、平成 27 年度おおさかストップ温暖化賞（大阪府主催）においては、「大阪府知事賞」を受賞し、2 月 16 日（火）に大阪府公館で表彰式が行われました。

今回の2つの受賞は、環境・エネルギー管理部が中心となっており、環境イノベーションデザインセンターとの連携で行った、大規模総合大学キャンパスの特性に応じた省エネルギーの様々な取組および全構成員の努力の成果として、エネルギー消費量（温室効果ガス排出量）を大幅に削減した実績を高く評価されたものです。



省エネ大賞（資源エネルギー庁長官賞）表彰式



おおさかストップ温暖化賞（大阪府知事賞）表彰式

— 退職時(平成28年3月31日) 永年勤続者表彰 —

総務企画部国際交流課	佐藤正子
総務企画部ハラスメント対策事務局	村尾眞理子
総務企画部多様な人材活用推進支援室	西山浩治
教育推進部	徳野正昭
教育推進部学生・キャリア支援課	竹原雅明
教育推進部学生交流推進課	今井京子
施設部企画課	浅沼智
施設部管理計画課	長谷昌俊
附属図書館吹田地区図書館サービス課	山崎隆史
法学研究科・高等司法研究科	太田知子
法学研究科・高等司法研究科	新保芳味
経済学研究科	金澤照美
医学系研究科	原田佳和
医学部附属病院	前田正美
	齋藤文子
	池田優子
	金京子
	二宮郁子
	土井司

医学部附属病院	兜森修
	松井昌彦
	畑崎泰定
	和田崇男
医学部附属病院総務課	松本吉雄
歯学研究科	田中一彦
歯学部附属病院	森隆敏
	西尾善子
薬学研究科	金野忠司
工学研究科	矢野美一
	川端弘俊
工学研究科総務課	松川理恵子
基礎工学研究科	滝口美弥子
言語文化研究科・外国語学部豊中事務室	玉置佳史
言語文化研究科・外国語学部箕面事務室	乾喜代一
産業科学研究所技術室	田中高紀
核物理研究センター	蘆田実
レーザーエネルギー学研究センター	福田優子
	吉田英次

新監事

平成 28 年 4 月 1 日	野々村英彦 櫻井美幸	非常勤
-----------------	---------------	-----

新総長参与

平成 28 年 4 月 1 日	野口眞三郎 (医学部附属病院長) 佐藤宏介 (全学教育推進機構長) 岩谷良則 (医学系研究科教授・学生生活委員会委員長)
-----------------	--

新理事補佐

平成 28 年 4 月 1 日	村上伸也 (歯学部附属病院長)	計画・評価関係
-----------------	-----------------	---------

新部局長

平成 28 年 4 月 1 日	文学研究科・文学部長	金水敏
	人間科学研究科・人間科学部長	栗本英世
	法学研究科・法学部長	林智良
	国際公共政策研究科長	大久保邦彦
	生命機能研究科長	近藤滋
	高等司法研究科長	下村眞美
	大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連小児発達学研究科長	谷池雅子
	医学部附属病院長	野口眞三郎
	歯学部附属病院長	村上伸也
	科学機器リノベーション・工作支援センター長	宗像利明
	ラジオアイソトープ総合センター長	篠原厚
	国際医工情報センター長	坂田泰史
	数理・データ科学教育研究センター長	鈴木貴
	全学教育推進機構長	佐藤宏介

新施設長

平成 28 年 4 月 1 日	医学部附属動物実験施設長	山下俊英
	人間科学研究科附属未来共創センター長	中道正之
	薬学研究科附属実践薬学教育研究センター長	八木清仁
	工学研究科附属オープンイノベーション教育研究センター長	山中伸介
	基礎工学研究科附属極限物質科学研究センター長	北川勝浩
	基礎工学研究科附属スピントロニクス学術連携研究教育センター長	吉田博
	微生物病研究所附属遺伝情報実験センター長	伊川正人
	微生物病研究所附属感染症国際研究センター長	飯田哲也
	産業科学研究所附属産業科学ナノテクノロジーセンター長	竹田精治
	産業科学研究所附属量子ビーム科学研究施設長	吉田陽一
	産業科学研究所附属産業科学連携教育推進センター長	大岩顕
	産業科学研究所附属国際共同研究センター長	竹田精治
	蛋白質研究所附属蛋白質解析先端研究センター長	中川敦史
	社会経済研究所附属行動経済学研究センター長	大竹文雄

新教授

平成 28 年 3 月 16 日	中山健一	【所 属】工学研究科 生命先端工学専攻物質生命工学講座 【最終学歴】H12.3 大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了	【前職】山形大学
平成 28 年 4 月 1 日	中野耕太郎	【所 属】文学研究科 文化形態論専攻世界史講座 【最終学歴】H5.3 京都大学大学院文学研究科修士課程修了	【前職】本学准教授
	堀江剛	【所 属】文学研究科 文化形態論専攻哲学講座 【最終学歴】H9.7 ハイデルベルク大学哲学・歴史学部修了	【前職】広島大学
	岡田裕成	【所 属】文学研究科 文化表現論専攻芸術史講座 【最終学歴】H1.3 大阪大学大学院文学研究科前期課程修了	【前職】本学准教授
	白川千尋	【所 属】人間科学研究科 人間科学専攻基礎人間科学講座 【最終学歴】H10.3 総合研究大学院大学大学院文化科学研究科博士課程修了	【前職】本学准教授
	稲場圭信	【所 属】人間科学研究科 人間科学専攻未来共生学講座 【最終学歴】H12.6 ロンドン大学キングズカレッジ神学宗教学科博士課程修了	【前職】本学准教授

新教授

平成 28 年 4 月 1 日	入戸野宏	【所 属】人間科学研究科 人間科学専攻人間行動学講座 【最終学歴】H10.3 大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了	【前職】広島大学
	藤野修	【所 属】理学研究科 数学専攻代数学講座 【最終学歴】H12.3 京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了	【前職】京都大学
	片山聡一郎	【所 属】理学研究科数学専攻解析学講座 【最終学歴】H8.1 京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了	【前職】和歌山大学
	志賀向子	【所 属】理学研究科生物科学専攻生物物質学講座 【最終学歴】H5.3 岡山大学大学院理学研究科博士後期課程修了	【前職】大阪市立大学
	岡田随象	【所 属】医学系研究科医学専攻ゲノム生物学講座 【最終学歴】H23.3 東京大学大学院医学系研究科博士課程修了	【前職】東京医科歯科大学
	高橋正紀	【所 属】医学系研究科保健学専攻機能診断科学講座 【最終学歴】H6.3 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了	【前職】本学講師
	岡本玲子	【所 属】医学系研究科保健学専攻総合ヘルスプロモーション科学講座 【最終学歴】H11.3 東京医科歯科大学大学院医学系研究科博士後期課程修了	【前職】岡山大学
	大畑充	【所 属】工学研究科マテリアル生産科学専攻構造化デザイン講座 【最終学歴】H9.3 大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了	【前職】本学准教授
	木田敏之	【所 属】工学研究科応用化学専攻分子創成化学講座 【最終学歴】H3.3 大阪大学大学院工学研究科前期課程修了	【前職】本学准教授
	藤井俊行	【所 属】工学研究科環境・エネルギー工学専攻量子エネルギー工学講座 【最終学歴】H11.6 大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了	【前職】京都大学
	梅田直哉	【所 属】工学研究科地球総合工学専攻船舶工学講座 【最終学歴】S57.3 大阪大学大学院工学研究科前期課程修了	【前職】本学准教授
	片山竜二	【所 属】工学研究科電気電子情報工学専攻エレクトロニクスデバイス講座 【最終学歴】H12.3 東京大学大学院工学系研究科修士課程修了	【前職】東北大学
	深澤正彰	【所 属】基礎工学研究科システム創成専攻数理計量ファイナンス講座 【最終学歴】H18.3 東京大学大学院数理科学研究科修士課程修了	【前職】本学准教授
	原田研介	【所 属】基礎工学研究科システム創成専攻知能システム構成論講座 【最終学歴】H9.3 京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了	【前職】国立研究開発法人産業技術総合研究所
	眞田篤志	【所 属】基礎工学研究科システム創成専攻光エレクトロニクス講座 【最終学歴】H6.3 岡山大学大学院自然科学研究科博士課程修了	【前職】山口大学
	出口真次	【所 属】基礎工学研究科機能創成専攻生体計測学講座 【最終学歴】H16.3 東北大学大学院工学研究科博士後期課程修了	【前職】名古屋工業大学
	境慎司	【所 属】基礎工学研究科物質創成専攻生物プロセス工学講座 【最終学歴】H14.7 九州大学大学院工学府博士課程修了	【前職】本学准教授
	加藤昌彦	【所 属】言語文化研究科言語社会専攻アジアII講座 【最終学歴】H4.3 東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了	【前職】本学准教授
	中嶋啓雄	【所 属】国際公共政策研究科比較公共政策専攻現代日本法経システム講座 【最終学歴】H4.3 一橋大学大学院法学研究科修士課程修了	【前職】本学准教授
	橋本昌宜	【所 属】情報科学研究科情報システム工学専攻集積システム設計学講座 【最終学歴】H13.3 京都大学大学院情報学研究科博士後期課程修了	【前職】本学准教授
	鈴木秀幸	【所 属】情報科学研究科情報数理学専攻非線形数理講座 【最終学歴】H13.3 東京大学大学院工学系研究科博士後期課程修了	【前職】東京大学
	中島和江	【所 属】医学部附属病院中央クオリティマネジメント部 【最終学歴】H10.7 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了	【前職】本学准教授
	吉村政志	【所 属】レーザーエネルギー学研究センターレーザーテラヘルツ研究部門 【最終学歴】H11.3 大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了	【前職】本学准教授
	義永美央子	【所 属】国際教育交流センター日本語教育研究チーム 【最終学歴】H14.7 大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程修了	【前職】本学准教授
	三原育子	【所 属】日本語日本文化教育センター 【最終学歴】H5.3 大阪外国語大学大学院外国語学研究科修士課程修了	【前職】本学准教授
	今井忍	【所 属】日本語日本文化教育センター 【最終学歴】H5.3 京都大学大学院文学研究科修士課程修了	【前職】本学准教授
	五之治昌比呂	【所 属】日本語日本文化教育センター 【最終学歴】H6.3 京都大学大学院文学研究科修士課程修了	【前職】本学准教授
	齊藤貴浩	【所 属】経営企画オフィス 【最終学歴】H10.3 東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程修了	【前職】本学准教授

定年退職者（平成 28 年 3 月 31 日）

教員

文学研究科	江川温 川村邦光
人間科学研究科	苧阪満里子
経済学研究科	金澤照美 高山正樹
理学研究科	鷹岡貞夫 高橋成人 西谷達雄 米崎哲朗
医学系研究科	宮崎純一 吉峰俊樹 依藤史郎
歯学研究科	姜英男 由良義明
薬学研究科	那須正夫
工学研究科	小野比佐好 加藤直三 北山研一 栖原敏明 谷野哲三 平田好則 福井希一
基礎工学研究科	糸崎秀夫 岡村康行
基礎工学研究科	山下治雄
言語文化研究科	三原健一
国際公共政策研究科	野村美明
情報科学研究科	今井正治 八木厚志

生命機能研究科	濱田博司
微生物病研究所	菊谷仁 安永照雄
産業科学研究所	磯山悟朗 市原潤子
蛋白質研究所	関口清俊 田嶋正二 長谷俊治 吉川和明
社会経済研究所	小野善康
接合科学研究所	片山聖二 高橋康夫 村川英一
環境安全研究管理センター	矢坂裕太
核物理研究センター	畑中吉治 藤田佳孝
免疫学フロンティア研究センター	坂口志文
未来戦略機構	FAENOV ANATOLY

事務・技術・医療職員	
総務企画部国際交流課	佐藤正子
総務企画部ハラスメント対策事務室	村尾眞理子
総務企画部多様な人材活用推進支援室	西山浩治
教育推進部	徳野正昭
教育推進部学生・キャリア支援課	竹原雅明
教育推進部学生交流推進課	今井京子
施設部企画課	浅沼智
施設部管理計画課	長谷昌俊
附属図書館吹田地区図書館サービス課	山崎隆史

法学研究科・高等司法研究科	太田知子 新保芳味
経済学研究科	金澤照美
医学系研究科	原田佳和
医学部附属病院	前田正美 齋藤文子 池田優子 金京子 二宮郁子 土井司 兜森修
医学部附属病院総務課	松本吉雄
歯学研究科	田中一彦
歯学部附属病院	森隆敏 西尾善子
薬学研究科	金野忠司
工学研究科	矢野美一 川端弘俊
工学研究科総務課	松川理恵子
基礎工学研究科	滝口美弥子
言語文化研究科・外国語学部豊中事務室	玉置佳史
言語文化研究科・外国語学部箕面事務室	乾喜代一
産業科学研究所技術室	田中高紀
核物理研究センター	蘆田実
レーザーエネルギー学研究センター	福田優子 吉田英次

訃報

大阪外国語大学	山口慶四郎 名誉教授	平成 28 年 1 月 20 日逝去
工学部	滑川敏彦 名誉教授	平成 28 年 2 月 2 日逝去
歯学研究科	古川惣平 教授	平成 28 年 2 月 11 日逝去
基礎工学部	今市憲作 名誉教授	平成 28 年 2 月 16 日逝去
文学部	梅溪昇 名誉教授	平成 28 年 2 月 18 日逝去
蛋白質研究所	勝部幸輝 名誉教授	平成 28 年 4 月 1 日逝去

Highly Cited Researchers に本学から 11 名が選出

Highly Cited Researchers は、トムソン・ロイター社が、世界中で引用された回数の多い論文の著者を研究分野ごとに選出したものです。2015 年は、21 分野で約 3,000 名の研究者が、世界的に最も影響のある研究を行っている研究者としてリストアップされています。

大阪大学からは、5 分野で 11 名（12 件）が選ばれました。

<五十音順>

BIOLOGY & BIOCHEMISTRY

審良 静男 免疫学フロンティア研究センター・教授

CHEMISTRY

佐藤 哲也 工学研究科・招へい教授

三浦 雅博 工学研究科・教授

MOLECULAR BIOLOGY & GENETICS

吉森 保 生命機能研究科・教授

PLANT & ANIMAL SCIENCE

柿本 辰男 理学研究科・教授

IMMUNOLOGY

審良 静男

石井 健

坂口 志文

佐藤慎太郎

竹田 潔

邊見 弘明

山本 雅裕

免疫学フロンティア研究センター・教授

免疫学フロンティア研究センター・特任教授

免疫学フロンティア研究センター・教授

微生物病研究所・特任准教授（常勤）

医学系研究科・教授

免疫学フロンティア研究センター・招へい准教授

微生物病研究所・教授

未来基金グローバル化推進事業

（海外グループ研修助成金）による総長報告会を実施

2月8日（月）、大阪大学未来基金グローバル化推進事業（海外グループ研修助成金）の総長報告会が行われ、本事業に採択された学生グループ3団体＜代表：柳川朔さん（文学部人文学科4年）ほか2名＞、＜代表：榊原美月さん（法学部国際公共政策学科3年）ほか2名＞及び＜代表：寺本将行さん（医学部医学科4年）ほか2名＞が、西尾章治郎総長に自らの研修成果を報告しました。

西尾総長から、「この事業のことをぜひ下級生など次の世代に継承してほしい。学生には意欲的にどんどん海外に出かけて世界には様々な文化があることを実地に経験してほしい」と激励の言葉が送られました。



グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) 合同発表会を開催

大阪府教育委員会および大阪大学は、2月13日（土）に同教委が指定する10校の進学指導特色校（グローバルリーダーズハイスクール（GLHS））の生徒による合同発表会を、豊中キャンパスの大阪大学会館で開催しました。

この発表会は、GLHSの生徒が人文科学、社会科学、自然科学の各領域に関する課題研究の成果を発表することにより、互いに刺激を受け、切磋琢磨し、学習や進路に関する意欲を高めるとともに、問題解決能力やプレゼンテーション能力を向上させることを目的として実施したもので、平成25年に双方が締結した連携協定に基づき、大阪大学での開催は4回目となりました。



「大阪大学リーダーズフォーラム」に 120 名が参加

「大阪大学リーダーズフォーラム」が2月16日（火）、豊中キャンパスの大阪大学会館で開かれ、約120名の出席がありました。

本催しは、大阪大学・大阪外国語大学を卒業後、ビジネスなど各界の一線で活躍するみなさまに、卒業生同士、また本学の教員や学生との交流を深めてもらうことを目的に、毎年開催しています。

通算4回目となる今年は、西尾章治郎総長による、2021年に向けた大阪大学のビジョンの概要紹介と大学近況報告のあと、吉川秀樹理事・副学長（産学連携、病院運営担当）が「医療事故から学ぶリスクマネジメント」のタイトルで講演。幅広い事例を引きながら、事故や失敗が起こる構造とリーダーの役割について語りました。

1954年法学部卒業の稲垣喬弁護士の前で乾杯ご発声で始まった交流会では、世代を超えた交歓が行われ、環境保全活動や起業に取り組む在学生2チームによるプレゼンテーションも盛んな拍手を受けました。和やかな中にも、阪大OB・OGならではの活力に満ちた会となりました。



「研究大学強化促進事業」の

平成27年度フォローアップにおいて、最高評価を獲得

平成27年度に実施された「研究大学強化促進事業」の初めてのフォローアップにおいて、大阪大学は最高評価の「特筆すべき進捗状況にある」との評価を受けました。（全22研究機関中、最高評価を受けたのは、本学と自然科学研究機構の2機関のみです。）

特に優れた点として、「リサーチ・アドミニストレーター（URA）のキャリアパス制度の整備が完了していること」や「多様な産学連携を推進し、成果を上げつつある Industry on Campus」、「国際ジョイントラボ」などの取組などが評価されています。

本結果は、文部科学省ホームページ「平成27年度「研究大学強化促進事業」のフォローアップ結果について」（http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/sokushinhi/1367633.htm）に公開されています。

大阪大学シンポジウム

「共創に向けた新しい協奏のかたち」を開催

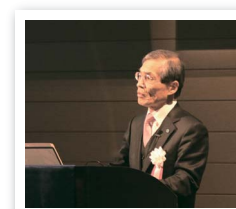
3月2日（水）、大阪大学シンポジウム「共創に向けた新しい協奏のかたち～オープン化が進む時代の「知」の役割～」をインターコンチネンタルホテル大阪で開催しました。

本シンポジウムは、社会の様々な分野で“オープン”をキーワードに新たな活動のモードが模索されている現代、オープン化が求められる諸活動のあり方や、そのもとで大学が担うべき役割などを展望し、大学教育・大学院教育の将来像を描いていくにあたり、産官学民、さまざまな立場の方々との対話を試みることをテーマとしたものです。平日の午後にもかかわらず、350名を超える参加者で会場はほぼ満席となり、テーマへの関心の高さがうかがわれました。

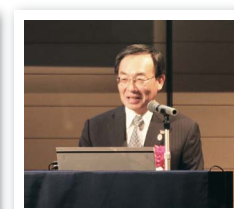
第一部の基調講演では、西尾章治郎総長から2021年に向けた新しい大阪大学のビジョンが示され、つづいてパナソニック株式会社 代表取締役社長の津賀一宏様よりオープンイノベーションの進展に向けた企業の取組みについてご講演いただきました。その後、超域イノベーション博士課程プログラム プログラムコーディネーターの藤田喜久雄教授から、新時代の博士人材育成についての取組報告がありました。

第二部では、オープン化に取り組まれている企業やNPO法人からパネリストをお招きし、本学教員を含む7名が白熱したディスカッションを行いました。オープン化に向けての工夫や実際の活動、課題などを示しながら、「オープン化を可能にするもの、阻害するものとは」、「オープン / クローズの線引きとは」といった議論や、オープンな場で大学が貢献できること、果たすべき役割についての意見が交わされました。

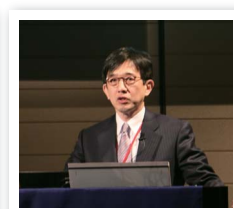
本シンポジウムを通し、新たな知の創造はもちろん、知の媒介者としての大学の役割を再認識するとともに、大阪大学、そして大学教育のこの先を「オープンに」議論する、貴重なはじまりの機会となりました。



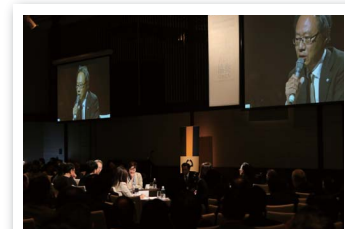
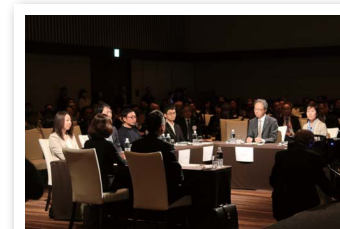
西尾総長



津賀社長



藤田教授



第5回サイエンス・インカレで大阪大学は全国最多の学生が表彰されました

3月5日（土）～6日（日）、神戸国際会議場で文部科学省主催の第5回サイエンス・インカレが開催されました。

書面審査を通過した176組（口頭発表46組、ポスター発表130組）が発表を行い、大阪大学からも13組（応募件数は25件、応募件数・採択件数ともに全国最多）の発表があり、その中から5組が表彰されました。また、学生組織であるサイエンス・インカレ・アンバサダーによるサイエンス・インカレ・アンバサダー賞が今年から設けられ1組が受賞しました。



「大阪大学出版会」情報！

1. 「学術書」の書籍化をお手伝いします！

現在、「平成28年度大阪大学教員出版支援制度」の募集を行っています。部局から申請のあった出版企画のうち、若手部門5点、一般部門5点について学術書として出版するもので、既刊書には学会賞を受賞した書籍もあります。とくに若手部門については、大阪大学未来基金のご支援も得ています。部局からの申請の締め切りは8月末です。意欲的な学術書出版企画をお待ちしています。

また、科研費の研究成果公開促進費「学術図書」の申請による出版もお勧めしています。学術書出版助成を得るための数少ない機会の一つですのでぜひご相談ください。

2. 「教科書」が今注目です！

2014年4月に刊行した『市民のための世界史』が好評です。従来の世界史教育を見直し、日本史とアジア史をつなげた理解、西洋中心でないトータルな世界史、あるいは過去から現代へのつながりや大きな流れが俯瞰的に理解できるよう、新しい世界史教科書として編み直されたもので、大学生のみならず一般読者の興味や学習意欲も惹き起こしています。

ほかにも学生にかかわらず読まれている教科書として、「世界の言語シリーズ」を現在までに10巻刊行しており、今春『ポルトガル語』『スウェーデン語』を刊行。既刊の多くが重版となっており、外国語学部レベルの重厚な教科書の需要の高さがうかがわれます。



面白い試みとして、ジュンク堂書店で大阪大学の学生が教科書として使っている書籍を販売する企画「教科書は最高の教養書フェア」を行ったところ、大きな関心を受けました。大阪大学が行う教育への高い関心も実感することができ、本を通して大学と社会との新たな接点を提供することができました。



3. 「教養書」が大人気！

大阪大学の研究成果をわかりやすく伝える教養書シリーズとして2007年に創刊された「阪大リーブル」も50巻を数えました。新刊『隕石でわかる宇宙惑星科学』は現役の東京藝術大学生でもある大阪大学名誉教授による著作で、軽妙な文章と著者本人によるユニークなイラストで人気を博し、たちまち重版となっています。



『ドーナツを穴だけ残して食べる方法』ではユニークな取り組みを幅広い読者にアピールしましたが、さらにコミック『証明の探究 高校編!』では、大学レベルの講義内容をコミックという手法で解説することにより高校生との橋渡しとなりました。

以上、大阪大学出版会の最近の出版活動からいくつかピックアップしました。様々なご提案、ご相談を重ねながら、大阪大学と社会をつなぎ、世代を越えて読み継がれていく本づくりをするため活動しておりますので、お気軽に声をおかけください。

お問い合わせ先：大阪大学出版会

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-7

大阪大学ウエストフロント

TEL：06-6877-1614（営業） 06-6877-5405（編集）

<http://www.osaka-up.or.jp/>

海外拠点 「阪大が持つ海外拠点や海外とのつながりを体感」



未来戦略機構 特任准教授

細田 一史

2016年3月21日から27日にかけて、阪大の大学院生20人がアメリカのベイエリア（サンフランシスコ・シリコンバレー等）へと研修に行きました。その研修の成果は非常に大きかったのですが、ここでお伝えしたいことは、この研修を可能にした阪大が持つ海外拠点や海外とのつながりの素晴らしさです。

ベイエリアにはApple、Google、Intelなど世界の名だたるIT企業、勢いのあるベンチャー企業、カリフォルニア大学やスタンフォード大学など世界最高峰の大学があり、今アメリカで最も家賃が高く、世界で最もホットな地域の一つです。私達ヒューマンウェアプログラムは情報科学・生命機能・基礎工学研究科によって、イノベーションリーダーを育成するために設立されており、その学生たちにとってこのベイエリアから学ぶこと、そしてこのエリアの活用方法は数え切れません。この研修では、こういった大企業、ベンチャー企業、上記2大学等に訪問しました。

そんなベイエリアに（だからこそ）大阪大学北米センターがあり、私達はその恩恵を思いきり受けました。これまでに北米センターは「学生主体活動」に重きを置いた人材育成として、海外研修を主軸とした「新威臨丸プロジェクト」を運営してきました。この趣旨はヒューマンウェアおよび研修目的に合致していたため、北米センター長の樺澤 哲教授にプランニングと現地サポートを、また前センター長の久保井亮一名誉教授に日本からの引率を依頼したところ、ご快諾いただきました。具体的には、ベイエリアで活躍する日本人起業家への協力依頼、留学生のビザ手配の受け入れ、学生自主企画のアイデアや起業家達がBarなどに集まるMeetupを取り入れる現地ならではのアイデアの提案など、非常にスムーズに魅力的な研修が組みあがっていきました。現地でも、企業訪問やUCバークレーとの合同イベントをサポートいただくとともに、アットホームに北米センターに迎え入れていただき、アメリカそしてベイエリアを身近に感じました。研修の結果として、学生全員が非常に多くを学んだと強い自覚があり、大成功に終わりました。

さらに北米センターは、大阪大学北米同窓会などの人的ネットワークを築いており、今回の研修では懇親会を開いていただきました。その面々をみて、私達は驚きを隠せませんでした。シリコンバレーの企業や日本の大企業のアメ利カ支部、現地大学などのアカデミア関連、JSPSやJETROおよび領事館といった行政機関など、まさに産学官にて活躍する方々が一堂に集まり、温かく迎えていただきました。その場でのお話の素晴らしさはもちろんのこと、このつながりにより次の日の学生自主企画に領事館や企業へ訪問させていただく学生もあり、貴重な経験を得ることができました。今後もこのつながりが明るい未来へ発展するのではとわくわくします。

以上のように北米センターに非常にお世話になりました。さらに北米センターのご尽力により、カリフォルニア大学のオフィスが阪大にあり、研修前に紹介していただきました。今回サポートいただいた全ての方々に、一同この場をかりてお礼を申し上げます。阪大にはこのように素晴らしい海外拠点があり、すぐにでも世界に羽ばたける恵まれた環境であることをひしひしと体感しました。阪大みんなでどんどん利用して世界で活躍できれば最高です！



北米センターのオフィスにお邪魔しました



大阪大学北米関連の皆様との懇親会にて

profile

細田 一史：ほそだ かずふみ

2002年大阪大学工学部卒業、2005年大阪大学情報科学研究科修了（情報修士）、2008年大阪大学生命機能研究科修了（工学博士）、2008～2013年大阪大学情報科学研究科特任助教、2013年～現在 大阪大学未来戦略機構ヒューマンウェアイノベーションプログラム特任准教授。生態系、細胞、生化学反応などの生命ダイナミクスに関する研究を専門とし、情報・生命・認知の融合領域において教育研究に従事。

平成28年度いちよう祭

いちよう祭は、本学の創立記念日(5月1日)を祝し、全学をあげて新入生を歓迎するとともに、教職員・学生の親睦及び地域との連携を図ることを目的に毎年開催しています。

今年も、学生・教職員、保護者の方、高校生、卒業生、地域の皆さまをはじめ学外の方に本学の教育・研究の内容を知っていただくため、次の日程により開催します。

皆さまのご来場をお待ちしております。

日 程:5月1日(日)・5月2日(月)

会 場:豊中キャンパス、吹田キャンパス

※ご来場の際は、公共交通機関をご利用下さい。なお、吹田キャンパスと豊中キャンパス間の移動については、連絡バスを運行しておりますのでご利用下さい。

問い合わせ先:総務部総務課総務係(TEL06-6879-7014)

第11回ホームカミングデイ

今年のホームカミングデイは、「落語」と「笑いのトークセッション」

大阪大学・大阪外国語大学のOB・OGをはじめとする「大阪大学ファミリー」が一堂に会し、交流を深めるイベントです。今年は初めて本学卒業生の落語家が来演。人気作家を交えたトークセッションとともに、大阪や中之島にまつわる楽しいお話が展開します。

当日は、春の学祭「いちよう祭」開催中。臨時託児室も開設します。ご家族・ご友人也大歓迎。在学生、保護者、地域のみなさまも一緒に、新緑のキャンパスでの1日をお過ごしください。

日 時:5月1日(日) 10:00～(9:30受付開始予定)

【プログラム】

10:00～11:40 セレモニー・落語・トーク(大阪大学会館(旧イ号館)講堂)

◆あいさつ 大阪大学 西尾章治郎総長

◆大阪大学同窓会連合会あいさつ 大阪大学同窓会連合会 熊谷信昭会長

◆落語「延陽伯」 林家染雀さん(1992年文学部卒)

◆お笑いトークセッション「おおさか・阪大・ナカノシマ」

医師・作家 久坂部羊さん(1981年医学部卒)×仲野徹・生命機能研究科教授(同)

×高島幸次・招へい教授・大阪天満宮研究員

【司会 関西テレビ放送アナウンサー 関純子さん(1988年人間科学部卒)】

12:00～13:30 懇談会(カフェ&レストラン「宙(そら)」)

問い合わせ先:大阪大学 卒業生室(TEL:06-6879-7196)

いくぜ!阪大 春のオープンキャンパス&学園祭

この度、春のオープンキャンパスを大学祭(いちよう祭)期間中に開催いたします。

春のオープンキャンパスでは、大学説明会のほか、現役大学生による受験生相談コーナーを設けるとともに、143もの研究室が趣向をこらして研究の魅力を伝えるべく、施設を開放しています。

また、阪大オリジナルグッズと交換できる研究室スタンプラリーを開催します。素敵な商品をご用意して、高校生の皆様をお待ちしております。

オープンキャンパス in いちよう祭で143の研究室が見学できるのは春だけです!!

大阪大学の雰囲気味わう絶好の機会です。ぜひ、ご参加ください。

日 時:5月1日(日) 10:00～16:00(9:30開場)

会 場:大阪大学 文理融合型研究棟1F/4F/6F/7F(豊中キャンパス)

問い合わせ先:大阪大学 春のオープンキャンパス推進チーム 山岡(TEL:06-6210-8249)



男女協働推進センター設立記念シンポジウム

大阪大学男女協働推進センター設立を記念し、4月1日より大阪大学招へい教授に就任された村木厚子氏(元厚生労働事務次官)をお迎えして設立記念シンポジウムを下記のとおり開催いたします。万障お繰り合わせの上、ご出席ください。

日 時:平成28年5月24日(火) 13:00～16:00

場 所:大阪大学吹田キャンパス 銀杏会館3階 阪急電鉄・三和銀行ホール

プログラム(総合司会:床谷 文雄 大阪大学男女協働推進センター 副センター長)

13:00～ 開会挨拶 西尾 章治郎 大阪大学総長

13:10～ 基調講演 テーマ「これからの働き方改革」
村木 厚子 大阪大学男女協働推進センター招へい教授

14:10～ 質疑応答

14:40～ 「センターのミッションについて」 工藤 真由美 大阪大学男女協働推進センター センター長

14:50～ 若手女性研究者によるパネルディスカッション
ファシリテーター 中野 元裕 理学研究科教授/大阪大学男女協働推進センター

16:00 閉会

申込は、男女協働推進センターホームページ(<http://www.danjo.osaka-u.ac.jp/>)から



総合学術博物館 第9回特別展

嗚呼黎明は近づけり…友よ我らぞ光よと —よみがえる旧制高校 大高・浪高の記憶と記録—

本展覧会では、大阪における二つの旧制高等学校—大阪高等学校と浪速高等学校について、設立、教育、学生生活、そして卒業生の活躍を、大阪大学が所蔵する様々な記録資料により紹介し、その意義を再考します。

会 場:大阪大学総合学術博物館待兼山修学館 入場無料

会 期:2016年4月27日(水)～2016年7月9日(土)

日曜日閉館、ただし5月1日(日)は開館

主 催:大阪大学総合学術博物館

共 催:大阪大学アーカイブズ

協 力:大阪府立大学 21世紀科学研究機構 大学史編纂研究所 大阪大学 21世紀懐徳堂



適塾特別展示「洪庵・惟準から伝わる緒方家の至宝—新寄贈資料展—」

日本近代医学史に重要な功績を残した緒方洪庵の医の精神は、洪庵から伝わる貴重資料から垣間見ることができます。特に医者的心得を説いた「扶氏医戒之略」、種痘事業の苦難を記した「除痘館記録」は、洪庵の肉筆であるだけに、より迫真力を備えています。

これらを含む、洪庵とその嗣子・惟準から玄孫の惟之氏に伝えられた貴重資料が、平成27年度に大阪大学適塾記念センターに寄贈されました。今回の特別展示では、新たに寄贈された緒方惟之氏旧蔵資料を厳選して展示し、緒方洪庵・惟準から伝わる医の系譜を紹介します。緒方家の至宝の実物を目にすることができる、貴重な機会をお見逃しなく。

主 催 大阪大学適塾記念センター・適塾記念会

開催日時 ①平成28年(2016)4月25日(月)～13日(金) ※土日祝日休館、ただし5月1日(日)は開館
②平成28年(2016)5月31日(火)～12日(日) ※6月6日(月)休館

開催場所 ①大阪大学会館 歴史展示室(豊中市待兼山町1-13 大阪大学豊中キャンパス)
②適塾(大阪市中央区北浜3丁目3-8)

参加方法 ①無料
②適塾参観料 <一般 260円(140円)、大学生・高校生 140円(80円)、中学生以下 無料>
※()は団体料金(20名以上)。大阪大学の学生は無料(要学生証提示)。



箕面キャンパス移転にかかる正式合意書を締結

平成27年6月、大阪大学と箕面市は、大阪大学の教育研究の発展・学習環境の向上と、箕面市の活気あるまちづくりを実現するため、大阪大学箕面キャンパス（粟生間谷地区）を北大阪急行線延伸に伴い整備される「（仮称）箕面船場駅」駅前（船場東地区）へ移転することについて、覚書を交換しました。

以来、大阪大学と箕面市はキャンパス移転について協議を重ね、4月12日（火）、正式合意書を締結しました。

今後、大阪大学と箕面市は、正式合意書に基づき、キャンパス移転と現キャンパス跡地の有効活用について相互に連携・協力します。

さらに、地域の持続的な発展と社会に役立つ多様な人材の育成・輩出を実現するため、大阪大学は、その知見や人材を積極的に、文化、教育研究、国際交流をはじめとする地域活性化の取り組みに提供し、箕面市は大阪大学の知見や人材を活用するとともに、人材が活躍する場を提供します。



倉田哲郎箕面市長（左）と西尾章治郎総長

今年度の司馬遼太郎記念学術講演会の開催日が6月18日（土）に決定

毎年恒例となっている、司馬遼太郎記念学術講演会を本年度は、6月18日（土）にサンケイホールブリーゼで開催予定です。

本学外国語学部の卒業生である司馬遼太郎さんがお亡くなりになって今年で20年。本年年度の講演会はぜひとも学生の皆さんにお聞きいただきたい内容で企画中です。

申し込み方法などの詳細は、本学ホームページ、O+PUSなどで随時ご連絡いたします。



去年の様子